

令和2年度 事業報告書 収支決算書

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日



～誰もが住み慣れた地域で安心して
暮らし続けることができるまちづくりをめざして～

社会福祉法人 大牟田市社会福祉協議会

目 次

令和2年度 事業報告

令和2年度 事業報告	1
【緊急事案】新型コロナウイルス感染症及び7月豪雨災害に伴う 生活支援について	2
大牟田市地域福祉実践計画に伴う基本目標	
【基本目標1】つながりを育む人づくり	6
【基本目標2】みんなで支え合う地域づくり	8
【基本目標3】生活課題の解決に向けた包括的な仕組みづくり	18
4. 安心して子育てできる環境整備について	29
5. 在宅生活の支援について	33
6. 社協基盤強化の取組みについて	36
令和2年度 各種会議・各種委員会報告	40
令和2年度 役員・評議員等名簿	42

令和2年度 決算書

I 財務諸表

令和2年度総合資金収支計算書	43
----------------	----

1. 法人全体

法人単位資金収支計算書(第1号第1様式)	44
法人単位事業活動計算書(第2号第1様式)	45
法人単位貸借対照表(第3号第1様式)	46
資金収支内訳表(第1号第2様式)	47
事業活動内訳表(第2号第2様式)	48
貸借対照表内訳表(第3号第2様式)	49
事業区分資金収支内訳表(第1号第3様式)	50
事業区分事業活動内訳表(第2号第3様式)	51
事業区分貸借対照表内訳表(第3号第3様式)	52
財務諸表に対する注記(法人全体)	53

2. 各拠点区分

(1) 社会福祉協議会(総合福祉センター) 拠点区分

資金収支計算書(第1号第4様式)	58
事業活動計算書(第2号第4様式)	62
貸借対照表(第3号第4様式)	66
資金收支明細書(別紙3(⑩))	67

サービス区分資金収支計算書(別紙3(⑩)-1)

法人運営事業サービス区分	73
総合福祉センター事業サービス区分	76

地域福祉総合推進事業サービス区分	77
共同募金配分事業サービス区分	78
障害者福祉サービス事業サービス区分	79
介護予防・相談センター事業サービス区分	81
放課後児童健全育成事業サービス区分	82
ファミリーサポートセンター事業サービス区分	84
地域子育て支援拠点事業サービス区分	85
生活支援コーディネーター第1層事業サービス区分	86
自立相談支援事業サービス区分	87
学習支援事業サービス区分	88
就労準備支援事業サービス区分	89
一時生活支援事業サービス区分	90
大牟田市アットリーチ強化事業サービス区分	91
生活福祉資金貸付事業サービス区分	92
居住支援協議会活動支援事業サービス区分	93
成年後見センター事業サービス区分	94
日常生活自立支援事業サービス区分	95
大牟田市被災者見守り・相談支援事業サービス区分	96
訪問介護事業サービス区分	97
訪問入浴介護事業サービス区分	99
居宅介護支援事業サービス区分	100
通所介護等事業（ふれあい処えいる）サービス区分	101
事業活動明細書(別紙3(⑪))	103
財務諸表に対する注記（社会福祉協議会(総合福祉センター)拠点区分）	109

(2) 歴木保育所拠点区分

資金収支計算書(第1号第4様式)	114
事業活動計算書(第2号第4様式)	116
貸借対照表(第3号第4様式)	118
財務諸表に対する注記（歴木保育所拠点区分）	119

II 財産目録

財産目録(別紙4)	122
-----------	-----

令和2年度

事 業 報 告 書

令和2年度 大牟田市社会福祉協議会 事業報告

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業運営上、様々な制約の中で、当初計画していた事業の多くが実行できませんでした。加えて、それぞれの部署で業務を継続するため、介護サービス等の一部の部署を除き、2交代勤務体制を敷くなどの感染症拡大防止対策を取らざるを得なくなりました。その一方で、コロナ禍において生活に困窮した人々に対する特例的な緊急小口資金貸付、総合支援資金貸付及び住居確保給付金が創設・補強され、申請窓口である生活支援相談室は多忙を極めました。

また、7月の豪雨災害により、大牟田市からの要請に基づき、7月9日、史上初めての「大牟田市災害ボランティアセンター」を設置しました。この災害ボランティアセンター運営においても、新型コロナウイルス感染症は大きな障壁となりました。

このように令和2年度は、新型コロナウイルス感染症や7月豪雨災害により、様々な緊急業務に対応することになりましたが、この災いは、社会福祉協議会が担う社会的な使命を改めて考えさせられることとなり、様々な経験ができた一年でもありました。

【令和2年度の特記すべき事項や活動】

① 生活福祉資金貸付事業（特例貸付）の相談支援

新型コロナウイルス感染の影響を受け、休業や失業等により生活資金に困っている方々を対象に「緊急小口資金」「総合支援資金」の特例貸付を実施しました。この特例資金は、貸付の期間延長が繰り返され、結果として1年を通して継続されました。本会の生活支援相談室では、応援体制を組みながら、年間2,000件を超える相談に応じました。

② 大牟田市災害ボランティアセンターの設置・運営

大牟田市との間に平成27年に締結した「災害時における大牟田市災害ボランティアセンターの設置及び運営に関する協定」に基づき、令和2年7月、大牟田市で初めて「大牟田市災害ボランティアセンター」を開設しました。これまで他都市で開設された災害ボランティアセンターと違い、コロナ禍での運営となったため、ボランティア募集範囲や受付時、活動中の感染拡大防止に配慮しなければならず、全てにおいて、様々な工夫を要しました。そうした中でも多くのボランティアや関係機関等の協力を得ながら、コロナ感染者を出すことなく、約2ヵ月間の運営を無事終えることができました。

③ 大牟田市地域支え合いセンターの設置・運営

豪雨災害から時間の経過とともに、被災者支援のフェーズも変わり、それまでのハード面の支援からソフト面の支援へとニーズが変容していた時期に、大牟田市から「大牟田市被災者見守り相談支援事業（大牟田市地域支え合いセンター運営）」を受託しました。生活支援相談員が被災者宅を戸別訪問し、支援ニーズの把握・掘り起こしを行い、必要に応じて、各種支援機関や専門職に繋ぐなど、被災者の心のケアと生活再建を総合的に支援する活動を展開しています。この事業は概ね3年間（令和4年度まで）の事業となっています。

④ 第4次大牟田市地域福祉実践計画策定の延期

令和2年度のはじめに、大牟田市地域福祉実践計画の策定に向け、各団体等へのヒアリングに着手した矢先に、豪雨災害が発生し、職員総動員で対応に当たったことやその後の被災者支援のために人員を割くことになりました。このため予定していた計画策定をすることが困難であると判断し、理事会の承認を得た上で、策定を1年先送りとしました。

各事業の実施状況につきましては、基本目標ごとに、報告いたします。

【緊急事案】
新型コロナウイルス感染症及び
7月豪雨災害に伴う生活支援について

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付等の緊急生活支援について

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、休業や失業等により、一時的または継続的に収入が減少し、緊急かつ一時的な生計維持のために貸付を必要としている世帯を対象に「緊急小口資金」及び生活再建までの間に必要な生活費用を原則3ヵ月以内での貸付を行う「総合支援資金」の特例貸付の申請受付を、福岡県社会福祉協議会（以下「県社協」）からの要請により行った。なお、「総合支援資金」貸付については、3ヵ月経過後も生活再建の見通しが立たない世帯に対し、3ヵ月ごとの延長貸付を行うこととされたため、最大9ヵ月間の貸付申請受付を行った。

また、「住居確保給付金事業」についても、特例として、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、休業や失業等により一時的または継続的に収入が減少した世帯も対象に、相談受付を大牟田市からの要請により行った。なお、「住居確保給付金事業」における家賃給付期間は原則3ヵ月となっているが、収入状況等が厳しい世帯に対しては、3ヵ月を単位として最長12ヵ月の申請受付を行った。

緊急生活支援は多忙を極めたが、各部署から応援体制を組みながら業務を実施した。

① 緊急小口支援貸付について（県社協受託事業）

【対象者】コロナの影響を受け、収入の減少があり、緊急かつ一時的な生計維持のための貸付を必要とする世帯

【貸付上限額】20万円以内 【据置期間】1年以内 【償還期間】2年以内

【貸付利息】無利子 【保証人】不要

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
受付件数	162	167	82	57	89	47	
金額(千円)	27,760	27,700	14,550	10,500	17,250	8,945	
区分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受付件数	22	30	19	33	62	84	854
金額(千円)	4,400	5,850	3,600	6,270	11,610	18,650	157,085

② 総合支援資金貸付について（県社協受託事業）

【対象者】コロナの影響を受け、収入の減少があり、継続的に生計維持のための貸付を必要とする世帯

【貸付上限額】単身世帯：月15万円以内 2人以上の世帯：月20万円以内 【据置期間】1年以内

【償還期間】10年以内 【貸付利息】無利子 【保証人】不要

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
受付件数	58	138	76	107	197	140	
金額(千円)	31,450	73,200	41,250	57,150	105,500	72,150	
区分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受付件数	76	84	47	56	194	191	1,364
金額(千円)	40,630	45,850	25,190	30,100	103,800	103,540	729,810

③ 住居確保給付金事業について（市受託事業）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
相談件数	32	72	17	22	24	11	
受付件数	9	30	10	19	15	7	
区分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	14	7	7	9	24	13	252
受付件数	13	8	5	8	18	12	154

(2) 大牟田市災害ボランティアセンター設置・運営・活動

① 災害ボランティアセンター設置

7月6日の記録的豪雨は、市内の広範囲で冠水し、死者2名、数千世帯に及ぶ床上・床下浸水や土砂崩れなど大規模な被害となった。これに伴い大牟田市からの要請に基づき7月9日に「大牟田市災害ボランティアセンター（以下「災害ボラセン」）」を総合福祉センター1階に設置した。本市に災害ボラセンが設置されるのは史上初めてとなった。本来ならば、被害が甚大であった「みなと校区」にサテライト型の災害ボラセンを立ち上げるべきところであったが、三川地区公民館やみなと小学校等も被災したことから、サテライトの設置については、困難と判断した。災害ボラセンは、7月9日に開所し、8月31日に閉所した。

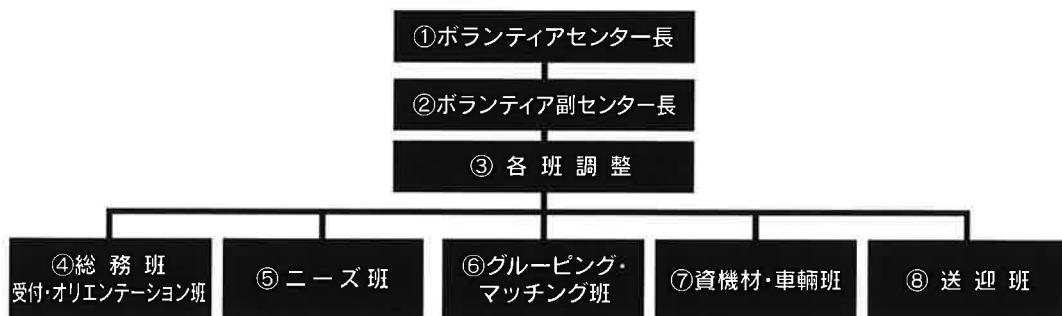


② コロナ禍での災害ボランティアセンター運営・活動

新型コロナウイルス感染症対策のために、ボランティア募集についても、有明圏域定住自立圏4市2町（大牟田市、みやま市、柳川市、荒尾市、南関町、長洲町）に限定した。加えて、ボランティアの受付・活動等に際しては、「完全予約制」「時間差集合」「検温」「ソーシャルディスタンスの確保」「マスク着用」「消毒」等を徹底し、さらには、熱中症対策や3密を避ける対策など、ボランティアの安全性にも十分に配慮をしなければならなかった。活動を完全予約制にしたことで、ボランティアの数を平日で50名以内、土・日・祝で100名以内に限った。



③ 災害ボランティアセンター運営体制・組織図



【主な業務分担】

- ①ボランティアセンター長…統括・渉外・取材対応
- ②ボランティア副センター長…センター長補佐（総合調整・行政との連絡調整）
- ③各班調整…各班連絡調整及び人的・消耗備品、車輛等の需給調整
- ④総務班、受付・オリエンテーション班
 - …ボランティア受付・ボランティア保険加入受付簿の整理、保管、センター内の衛生管理・ケガ等への対応・活動報告の受付・オリエンテーション
- ⑤ニーズ班…相談受付・ニーズ票の作成・地図作成・現地調査
- ⑥グループピング・マッチング班…完全予約制によるボランティアのマッチング及びグループピング
- ⑦資機材・車輌班…資機材の貸出・資機材の受入・資機材管理・車輌管理
- ⑧送迎班…ボランティアの送迎

④ 災害ボランティア活動状況報告

① 災害ボランティア登録受付

個人	団体	合計
251名	85団体	389名
		640名

② 災害ボランティア活動実績

活動期間	活動状況	活動日数	活動件数	延べボランティア数
7月12日～8月3日	毎日実施	21日	245件	1,318名
8月4日～8月31日	火・木・土・日実施	13日	98件	634名
9月～3月	ボランティア要請による	14日	19件	69名
合 計		48日	362件	2,021名



⑤ 床下対応講習会の実施

浸水した床下の適切な対応をせず、そのままの状態にしているとカビ発生等の原因となることから、浸水した床下の適切な対応について“災害NGO結”を招き、三川地区公民館及び市民活動等多目的交流施設“えるる”で床下対応講習会を実施した。延べ5日間で138名が参加した。



会場・日程	8月17日	8月18日	8月19日	9月4日	9月5日	合計
三川地区公民館	31名	34名	47名	—	—	112名
多目的交流施設 えるる	—	—	—	20名	6名	26名
合 計	31名	34名	47名	20名	6名	138名

※9月5日は台風10号接近のため、参加者が減少

⑥ 「2020年7月 大牟田市災害ボランティアセンター活動報告書」の作成

7月9日、大牟田市との協定に基づき「大牟田市災害ボランティアセンター」を設置した。開所期間は約2ヵ月間であったが、ボランティアによる復旧支援活動を時系列にまとめるとともに、運営体制・組織図、班別業務内容、県社協・近隣社協等の応援体制やボランティア活動の状況、振り返りによる課題等を記した「2020年7月大牟田市災害ボランティアセンター活動報告書」を作成した。報告書には、コロナ禍における災害ボランティアセンターの設置・運営マニュアルも作成・添付し、大牟田市災害関連部署、県社協・近隣社協等へ送付した。



(3) 大牟田市被災者見守り・相談支援事業（大牟田市受託事業） ～大牟田市地域支え合いセンター設置・運営・活動～

① 地域支え合いセンター設置目的

生活支援相談員による被災者の見守り・巡回訪問などを通じて、支援ニーズの把握・掘り起こしを行い、個別の状態や支援ニーズに応じて各種支援機関や専門職等と連携し、被災者の生活再建を総合的に支援することを目的とする。

② 地域支え合いセンターの具体的な活動

- ①市内全域の在宅被災世帯に対して、戸別訪問し、家屋・世帯員の状況、支援ニーズや課題を把握すること。加えて、り災証明の申請もれについても確認する。
- ②訪問調査で把握した様々な課題に対して、自力などにより生活再建できるのか、継続的な支援が必要なのかを検討し確認する。
- ③継続的な支援が必要な世帯については、個別ケース検討会議を開催し、市や支援団体、専門機関等と連携し役割分担する。
- ④被災世帯が通常の生活を取り戻していくのに合わせ、通常の福祉サービスへ移行できるように支援していく。

③ 地域支え合いセンター運営体制と主な活動状況

地域支え合いセンタービー体制は、センター長1名、主任生活支援相談員2名、生活支援相談員4名、補助員20名で、補助員の多くは、被害が大きかった「みなし校区」の民生委員、公民館長、福祉委員などの地域関係者や、「明治校区」の民生委員に担っていただいた。11月下旬より被災世帯が多かった「みなし校区」「明治校区」「銀水校区」「手鎌校区」などの順に、被災者宅の戸別訪問を開始した。

1月中旬に「緊急事態宣言」が発出されたことで、3月初旬まで、戸別訪問を自粛し、まだ戸別訪問を実施していない世帯を対象に、被災者生活再建の相談案内を記したチラシのポスティングを実施した。また並行して、民生委員等の協力を得て、電話による聞きとり調査も行った。加えて、大牟田市生活支援再建班が対応していた“みなし仮設入居者・公営住宅等一時入居者”支援についても、3月初旬より地域支え合いセンターへの引継ぎ作業等が行なわれ、これで令和3年度からは被災した世帯を全て支援対象とすることになった。



④ 地域支え合いセンター運営・活動状況報告

日付	内 容
11月 1日	大牟田市より、大牟田市被災者見守り・相談支援事業を受託
11月 2日	大牟田市地域支え合いセンター設置
11月 5日	第1回地域支え合いセンター研修会
11月 12日	大牟田市民生委員・児童委員協議会へ地域支え合いセンター概要説明
11月 24日	地域支え合いセンター生活支援相談員・補助員出発式（戸別訪問スタート）
11月 25日	第2回地域支え合いセンター研修会
12月 14日	大牟田市校区社協会長連絡協議会へ地域支え合いセンター概要説明
1月 16日	緊急事態宣言により、戸別訪問一時休止
2月 9日	福岡県議会厚生労働環境委員会より地域支え合いセンター業務についての視察受入
3月 1日	緊急事態宣言解除により、戸別訪問再開
3月 8日	大牟田市生活支援再建班と協働し、みなし仮設世帯の訪問活動スタート

⑤ 戸別訪問活動状況（調）

（令和3年3月31日現在）

区分	訪問件数	完 了	不 在	不 明	空地・更地	拒 否
件 数	2,345 件	1,342 件	642 件	84 件	258 件	19 件
割 合	100.0%	57.2%	27.4%	3.6%	11.0%	0.8%

**【基本目標1】つながりを育む人づくり
支え合いのあるまちづくりの担い手を育成します。**

(1) 福祉教育推進事業

① 福祉教育を推進する人材の育成

①福祉教育活動の支援

市内の中学校への出前講座を実施した。障がいや高齢者に関する理解とともに、地域福祉の視点を取り入れた福祉教育を展開した。

実施日	学校名	内 容
1月 19 日	橋中学校	市社協について、高齢者疑似体験セットの使い方

②地域を基盤とした福祉教育の展開

校区社会福祉協議会が実施する、学校教育における地域福祉活動の学習に参加した。

中友小学校 子ども民生委員	委嘱式、訪問活動、赤い羽根共同募金街頭募金活動
白川小学校 ジュニア民生委員	委嘱式、赤い羽根共同募金活動及びポスター作成



中友小 子ども民生委員 訪問活動



白川小 ジュニア民生委員
ポスター作成

② 福祉教材の貸出

福祉への関心や理解を高める教育活動において活用できる福祉教材（高齢者疑似体験セット、車いす、白杖、アイマスク、DVD等）を貸出した。

貸出件数	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
合計件数	30 件	17 件	27 件	18 件	12 件

③ ゲストティーチャーの派遣調整

高齢者疑似体験や障がいについて学ぶ講座など学校等における福祉教育活動に、大牟田市視力障害者福祉協会、大牟田聴覚障害者福祉協会、大牟田手話の会「ありあけ」の協力を得て、講師（ゲストティーチャー）を派遣した。また、点字教室では、点訳奉仕「大牟田むつき会」の協力を得た。

派遣件数	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
合計件数	25 件	17 件	15 件	15 件	13 件



聴覚障がい者の講話



車いす体験学習の様子



出前講座の様子

(2) ボランティアセンター機能充実事業

① 情報の収集・発信・提供

ボランティアや福祉に関する情報を収集し、広報紙やWEBサイト、掲示版などでボランティア活動に関する情報を提供した。とくに、令和2年7月豪雨災害によって総合福祉センター内に大牟田市災害ボランティアセンターを設置し、災害ボランティア活動のニーズ受入れやボランティア募集、ボランティア活動状況報告等についてFacebookを活用して、豪雨災害に関する情報を発信した。

② ボランティア活動の相談・調整・支援

①ボランティア活動のコーディネート

ボランティア活動をしたい人とボランティア活動を必要とする人からの相談を受け、67件のボランティア活動をコーディネートした。

【ボランティア活動コーディネート内訳】

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| (1) 災害関連ボランティア 19件 | (2) 同行援護・傾聴・手話・点訳 15件 |
| (3) 施設慰問（マジック・舞踊等）14件 | (4) サロン活動出前講座 10件 |
| (5) 家屋修繕 4件 | (6) 福祉的交流等その他 5件 |

②登録ボランティアの支援

ボランティア活動への参加を促進するために、ボランティアグループの結成・運営などに関する相談や活動に必要な機材の貸出、各種助成金申請等を支援した。

※令和2年度登録ボランティア数（グループ：46団体、個人60名）

③ボランティア活動保険加入の支援

加入件数	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
加入人数	1,736名	1,446名	1,142名	1,252名	1,902名

※令和2年度のうち、大規模災害特例による加入受付件数708名

**【基本目標2】みんなで支え合う地域づくり
人と人とのつながりを深め 地域の支え合い活動を推進します。**

(1) 小地域ネットワーク活動推進事業

地域の中で孤立する人を出さないように、地域住民が身近な課題を見つけ、小地域単位の活動を行い、地域を基盤とした解決が可能な支援ネットワークとなることをめざして、以下に取り組んだ。

① 福祉委員の委嘱及び研修

今年度は福祉委員（第8期：令和2年7月1日～令和4年6月30日）の改選期であった。コロナ禍ではあったが、委員の交代や追加に伴い、新任福祉委員への委嘱を行うとともに、新任福祉委員研修会を実施した。

① 福祉委員の配置数 355名（新任福祉委員数 58名）

配置数	第6期	第7期	第8期
福祉委員配置数	354名	362名	355名
充 足 率	95%	99%	96%

② 新任福祉委員研修会の実施

実施日	場 所	参加者数	実践報告者
7月18日	総合福祉センター	6名	吉田美津子さん（平原）
7月21日	中央地区公民館	2名	稻田勝介さん（大正）
7月22日	駒馬地区公民館	4名	木田秀樹さん（駒馬）
7月28日	手鎌地区公民館	10名	帆士知子さん（手鎌）
7月29日	吉野地区公民館	4名	田尻竹久さん（吉野）
8月 3日		9名	古賀貞子さん（白川）
8月24日午前	総合福祉センター	11名	永井幸枝さん（三池）
8月24日夜間		7名	田中久仁子さん（天領）
個別対応		5名	福田紀子さん（天の原）
合 計		58名	



新任福祉委員への委嘱状交付



新任福祉委員研修会（実践報告）

③ 校区福祉委員研修会の実施

開催月日	主 な 内 容	人 数
9月14日	明治校区福祉委員研修会 「災害時の福祉委員の活動について」	20名
9月14日	吉野校区福祉委員研修会 「コロナ禍における小地域ネットワーク活動について」	28名

(2) 生活支援コーディネーター第1層事業（市受託事業）

本事業は、本会に第1層生活支援コーディネーターを配置し、大牟田市、地域包括支援センター、その他関係機関等と連携しながら、新たな社会資源の開発と住民ニーズの把握、社会資源とのマッチング等を行うことを目的としている。各地域包括支援センターの第2層生活支援コーディネーターや共創サポートーと連携し、地域包括ケアシステム構築に向けて、地域住民等による生活支援活動をより充実させるために、以下のことを取り組んだ。

【生活支援コーディネーター第1層事業】

開催日	主な内容
8月 1日	・生活支援コーディネーター第1層事業受託
11月 19日	・第1回研修「大牟田市権利擁護センター運営事業について」 ・各校区における取り組み報告 ・広報レイアウト確認
12月 22日	・第2回研修「大牟田市地域支え合いセンターについて」 ・各校区における取り組み報告 ・広報レイアウト確認 ・コロナ自粛期間の事例共有
1月 14日	・第3回研修「居住支援協議会について」 ・各校区における取り組み報告 ・コロナ自粛期間の事例共有
2月 17日	・第4回研修「大牟田市社協ボランティアセンターについて」 ・各校区における取り組み報告 ・リーフレットの作成について
3月 25日	・各校区における取り組み報告 ・リーフレットの作成について ・ふれあいサロン開催状況の情報共有
毎月実施	・玉川校区移動手段検討会議 ※第1層・第2層生活支援コーディネーター、共創サポートーと参加

※第1層・第2層生活支援コーディネーターは、「校区社協会長会会議」へ出席

(3) 地域組織活動促進事業

① 校区社会福祉協議会との連携・協働による地域福祉力の向上

- ①小地域ネットワーク活動の支援（別掲P8）
- ②ふれあいサロン支援活動（別掲P11～P12）
- ③子ども・地域食堂の活動の支援（別掲P27～P28）

② 大牟田市健康福祉総合計画・地域福祉実践計画策定等のヒアリングの実施

校区社会福祉協議会会长連絡協議会（以下、「校区社協会長会」という。）と協働して大牟田市が策定する大牟田市健康福祉総合計画及び本会が策定する第4次地域福祉実践計画に対して、地域の意見を反映させるために、大牟田市民生委員・児童委員協議会や大牟田市校区コミュニティ連絡協議会等へヒアリングを実施した。また、第3次地域福祉実践計画の総括についても、校区社協会長会に対して、ヒアリングを実施した。

③ 校区社協会長会事務局としての役割

校区社協会長会が主体となって取り組む地域福祉活動を事務局として支援した。奇数月に役員会、偶数月に校区社協会長会会議を開催するとともに、校区社協会長会の研修部会・広報部会についても、同様に情報提供等を行いながら、部会活動を支援した。

①役員会・会長会開催の支援

会議名	開催月日	主な内容
監査	4月 7日	・令和元年度 校区社協会長会 監査
第1回 会長会	4月 13日	・令和元年度 校区社協会長会事業報告について ・令和元年度 校区社協会長会収支決算について ・令和元年度 監査報告 ・令和2年度 校区社協会長会事業計画（案）について ・令和2年度 校区社協会長会収支予算（案）について
第2回 役員会 会長会	6月 8日 6月 22日	・令和2年度 校区社協会長会役員の定数削減（案） ・令和2年度 校区社協会長会役員選出方法の変更（案） ・令和2年度 校区社協会長会役員改選について
第3回 役員会 会長会	7月 27日 8月 11日	（報告連絡のみで、議題なし）
第4回 役員会 会長会	9月 28日 10月 12日	・令和2年度 優良校区社協の推薦について
第5回 役員会 会長会	11月 24日 12月 14日	（報告連絡のみで、議題なし）
第6回 役員会 会長会	1月 25日 2月 8日	・令和2年度 校区社協会長会事業報告（案）について ・令和3年度 校区社協会長会事業計画（案）について ・第6回 校区社協会長会の書面決議
第7回 役員会	3月 22日	・令和2年度 校区社協会長会事業報告（案）について ・令和2年度 校区社協会長会収支決算（案）について

②研修部会との協働による研修の企画・実施

新任校区社協会長研修会や校区社協会長会の座学研修会等の内容等について、校区社協会長会研修部会と協力して実施した。

開催月日	研修会の主な内容
6月 22日	新任校区社協会長研修会 ※大牟田市の地域福祉の現状について
7月 18日 ～ 8月 24日	新任福祉委員研修会 ※新型コロナウイルス対策の為、8会場で分散開催
9月 4日 ～ 9月 5日	床下対応講習会 講師：災害 NGO 結 前原土武さん
12月 14日	座学研修「大牟田市健康福祉総合計画について」 講師：大牟田市福祉課 主幹 坂口大輔さん
3月 16日 ～ 3月 22日	動画研修「みんなが主役の元気な地域づくりセミナー」 講師：こころ研究所 所長 鎌田 敏さん



新任校区社協会長研修



校区社協会長会座学研修

③広報部会との協働による校区社協が取り組む地域福祉活動に関する情報発信
社協だより“きらり”、事務局通信“きらり”を活用して校区社協会長会だより「つながり」の発行を支援した。

社協だより“きらり”での「つながり」の発行	
社協だより秋号	新会長挨拶、校区社協会長・役員紹介
事務局通信“きらり”での「つながり」の発行	
7月号	校区社協会長・新役員紹介
11月号	福岡県社会福祉功労者表彰 優良校区表彰（大正校区）

(4) ふれあいサロン活動支援事業

① サロン活動支援金の交付

ふれあいサロンとは、ご近所の人達が「みんなで集まりおしゃべりなど楽しむ」地域の憩いの場である。気軽に始める“仲間づくり”“生きがいづくり”的活動という要件を満たした登録サロン136カ所中、休止中4カ所を除く、132カ所に活動支援金を交付した。

② サロン連絡会の開催

サロン活動の活性化のために、大牟田市福祉課健康対策担当職員による「フレイル予防」についての講話及び「よかば〜い体操DVD」の紹介を行った。さらに、コロナ禍の中でのサロンの在り方についての助言指導を行った。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、11会場での分散型の連絡会となった。参加者からは「フレイル予防の一つとして、サロン活動の必要性を感じた」「すぐにでも、よかば〜い体操を導入したい」「コロナ禍の中でのサロン活動の展開方法のヒントを得た」などの感想を頂くことができた。



第1回サロン連絡会

実施月日	9月14日～11月16日 全11回
実施場所	各地区公民館・コミュニティセンター・総合福祉センター
実施内容	健康づくり講話（フレイル予防等）、よかば〜い体操の紹介と体験、サロン保険についての説明等
参加人数	サロンの代表者、世話人、校区社協会長、生活支援Co等 200名
協 力	大牟田市福祉課健康対策担当

③ 各サロンへのヒアリング及びサロン立ち上げ支援

コロナ禍によりサロン活動についても、自粛が求められる中、5月～6月にかけ、全登録サロンに電話によるサロンの実施状況についてのヒアリングを行い、必要に応じて個別訪問も行った。また、今年度は新たに2カ所のサロンの立ち上げを支援し登録を行った。

④ レクリエーション用具の貸出

サロン活動の内容充実のため、各登録サロンに対し、22種類のレクリエーション用具の貸出を行っているが、今年度はコロナ禍によるサロン活動の自粛が多く、貸出が少なかった。前年度と比較すると約3割程度で、貸出件数は19件であった。

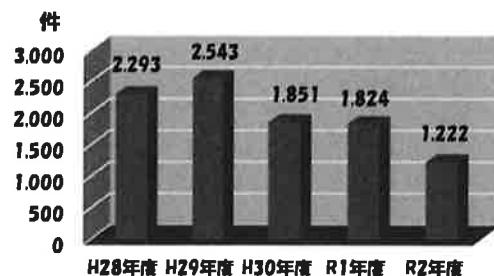
【貸出レクリエーション用具一覧】

1	スキヤキ・ジャンケン	12	わなげ
2	唱歌かるた	13	スポーツ吹き矢
3	開運お手玉ボード	14	コミュニケーション麻雀
4	羽根っこゲーム干支セトラ	15	ポールボードゲーム
5	将棋（小）	16	友・遊ボウリング
6	囲碁（小）	17	スカットボールⅡ
7	神戸ミニヤード	18	ゲームレール
8	たいこ相撲	19	ニチレクボール（ペタンク）
9	スマイル射的	20	お手玉リズム体操&陣取りマット
10	釣りっこ	21	グラウンドゴルフセット
11	台風ドカン	22	スティックリング

(5) 住民参加型在宅福祉サービス提供体制充実事業

① おおむたキャロットサービス会員の登録・活動の調整

日常生活において、公的サービスでは対応できない生活課題を抱えている一人暮らし高齢者等に対し、サポーター登録した協力会員が生活支援サービスを行った。今年度の実績は、新型コロナウイルス感染症により4月～5月は活動を休止したため、件数は減少した。



①会員の登録

区分	R1年度 登録者数	R2年度登録者数			前年度比	
		新規登録者数	退会者数	計		
利用会員	116名	30名	61名	85名	31名減	73%
協力会員	48名	7名	18名	37名	11名減	77%
合計	164名	37名	79名	122名	42名減	74%

②キャロットサービス事業の内訳

家事支援		買物	薬受取	通院外出付添	見守り	話し相手	草とり	ゴミ出し	その他		
掃除	洗濯								修繕など	その他	産前産後
662	79	344	0	49	0	8	23	5	5	47	0

② 協力会員の養成講座の実施

①おおむたキャロットサービス協力会員養成講座の実施

キャロットサービスへの様々な依頼に対応するために、協力会員の養成に取り組んだ。今年度も昨年度同様、キャロットサービス協力会員だけでなく、同じボランティア精神に支えられた日常生活自立支援事業の生活支援員とファミリー・サポート・センターの協力会員の養成を「市民サポートー養成講座」として以下のとおり、実施した。講座の内容は、新型コロナウイルス感染拡大予防により、昨年度より回数、定員等を縮小して行った。

キャロットサービス協力会員としては5名の登録があったが、他のサポーターへの重複した登録もあった。今後も講座の内容やあり方等を検討しながら、市民の方々が興味を持ち、参加しやすい講座を実施していくこととしたい。

【市民サポーター養成講座】

実施月日	主な講座内容	人 数
11月10日	第1回「ボランティアについて」 講師：筑紫文学園大学 社会福祉コース 教授 山崎安則さん	18名
11月12日	第2回「傾聴」 講師：再評価カウンセリング 九州エリア代表 宮崎由紀子さん	14名
11月17日	第3回「子どもについて」 講師：くぬぎ保育所 副所長 黒田あゆみ	14名
11月19日	第4回「高齢者・障がい者について」 講師：大牟田市社協 前田佳宏	17名
11月24日	第5回「事業紹介・実践発表」 講師：各事業の活動者	15名

②協力会員対象の会報紙の発行

今年度より、「キャロット通信」を年間3回（5月、10月、3月）発行し、キャロットサービスの情報・現状等を協力会員に伝えた。



（6）地域支え合い活動の推進事業

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、大人数を集めての研修会や集会の実施が困難な状況が続き、例年開催していた「大牟田市地域福祉大会」や「地域リーダー合同研修会」については直前まで調整を行ったものの、最終的には開催を断念した。

とくに、大牟田市地域福祉大会は、市民一人ひとりが自ら住んでいる地域に積極的に関わり、地域住民の支えあいの“絆”を創造することを目的に2月14日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発令を受けて大会の中止が決定した。今年度の表彰対象者に対しては、大会当日にお渡しする予定だった表彰状や記念品に加え、主催者及び来賓からのお祝いメッセージを添えて送付した。今年度は、災害支援活動に寄与した個人・団体等も表彰対象とした。

表 彰 内 容	<p>【地域福祉功労者表彰式】</p> <p>地域福祉の向上に貢献され、他の模範となる個人又は団体に対する表彰状の授与を行うことでその功績を称えた</p>
	<p>■大牟田市社会福祉協議会 功労者表彰 (表彰の部)</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 市社協役員・評議員 (3名) □ 校区社協実践活動者 (42名) □ 優良校区社協 (羽山台校区) <p>(感謝の部)</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 校区社協実践活動者 (29名) □ ボランティア活動者・団体 (1団体) □ 善意銀行高額寄付者・団体 (12名・4団体) □ 災害支援ボランティア活動者 (8名・6団体) □ 災害物品寄附 (9団体) □ 災害支援寄附金 (1名・5団体) □ 特別功労者 (3名) <p>■共同募金高額寄付者・団体表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 福岡県共同募金会会長表彰 (1名・3団体) □ 赤い羽根共同募金高額寄付団体 (15団体) □ 歳末たすけあい募金高額寄付団体 (2団体)
	<p>受賞おめでとうございます</p>  <p>QRコード</p> <p>お祝いメッセージ</p> <p>QRコード</p> <p>地域福祉功労者表彰</p>

(7) 共同募金等を活用した支え合い活動の推進事業

① 福岡県共同募金会大牟田市支会との連携

①赤い羽根共同募金運動・歳末たすけあい募金運動の実績

今年度の共同募金運動については、コロナ禍に加え、豪雨災害にも見舞われ、厳しい状況であったが、例年通り、福岡県共同募金会大牟田市支会と連携して取り組んだ。ただし、豪雨災害の被害が大きかった「みなと校区分会」は、共同募金運動を断念せざるをえなかった。

赤い羽根共同募金については、今年度、大牟田市支会オリジナル資材である「ジャーフマスク」の販促に取り組み、コロナ禍の中、予想以上の反響があり、多くの市民に協力頂いた。一方、歳末たすけあい募金については、赤い羽根募金との区別を明確にしながら、校区を中心に募金活動を展開した。厳しい募金活動であったが、赤い羽根共同募金も歳末たすけあい募金についても、皆さんのご協力のもと、前年比約95%の結果となった。また、双方とも、従来通り、大牟田市内での主な使いみちを具体的に示した「大牟田版ミニチラシ」を配布したり、地域コミュニティラジオ「FMたんと」へ出演し、広報するなど、使途の透明化を図った。

【赤い羽根共同募金（運動期間：10月1日～12月31日）】

(単位：円)

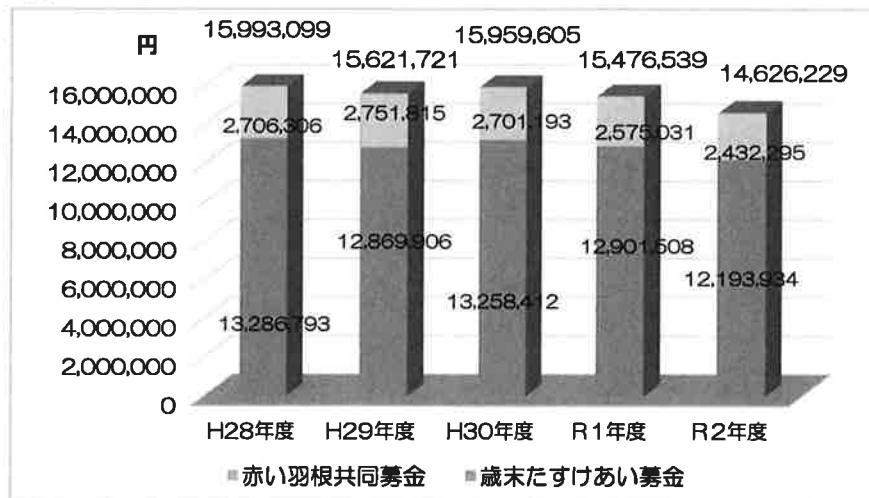
実績額	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
募金額	13,286,793	12,869,906	13,258,412	12,901,508	12,193,934
前年度比	96%	97%	103%	97%	95%

【歳末たすけあい募金（運動期間：12月1日～12月31日）】

(単位：円)

実績額	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
募金額	2,706,306	2,751,815	2,701,193	2,575,031	2,432,295
前年度比	97%	102%	98%	95%	95%

【共同募金実績の推移】



②街頭キャンペーン活動への参加

実施月日	実施場所	参 加 者
10月 1日	ゆめタウン	大牟田市長、福岡県共同募金会大牟田市支会会长・副会長・理事、大牟田市社会福祉協議会会长・役職員
	イオンモール	
12月 1日	ゆめタウン	大牟田市副市長、福岡県共同募金会大牟田市支会会长・副会長・理事、大牟田市社会福祉協議会会长・役職員
	イオンモール	

③FMたんとでの広報活動

実施月日	内 容
9月 25日	赤い羽根共同募金運動と使途について
11月 27日	歳末たすけあい募金運動と使途について

④法人募金の実績

実績額	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
法人数(社)	394	440	446	451	469
募金額(円)	2,203,006	2,441,803	2,570,577	2,720,381	2,868,121
前年度比	95%	111%	105%	105%	105%

⑤赤い羽根自動販売機の設置及び実績

大牟田市支会の特徴的な取り組みの一つである飲料水の売り上げの一部が寄付される「赤い羽根自販機」を市内に49台設置している。

実績額	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
設置台数	50台	50台	50台	49台	49台
募金額(円)	895,088	856,232	886,666	863,588	※640,089
前年度比	93%	96%	104%	97%	74%

※一部の自販機について、精算時期を変更したことにより、募金額が減少

⑥街頭募金の支援

運動期間中に、様々な団体が市内各所で街頭募金を実施した。

【赤い羽根共同募金】

実施月日	実施場所	実施団体名
10月 1日	ミスター・マックス、ザ・ビッグ	天の原校区社協
10月 10日	銀座通り商店街	中友校区民児協
10月 15日	マルショク吉野店他	吉野校区社協
10月 17日	ゆめタウン	大牟田市身障連
10月 20日	ゆめタウン	大牟田市ボランティア連絡協議会
10月 27日	ゆめタウン	白川校区社協
11月 3日	ゆめタウン	大牟田中央校区まちづくり協議会
11月 5日	マルエイ大牟田店	天の原校区社協
11月 10日	銀座通り商店街	中友校区民児協・子ども民生委員
11月 14日	ゆめタウン	大牟田中央校区まちづくり協議会
11月 17日	ゆめタウン	白川校区社協
11月 23日	ダイレックス歴木店	高取校区社協
12月 6日	ミスター・マックス、ザ・ビッグ	天の原校区社協
12月 8日	ゆめタウン	白川校区社協
12月 13日	マミーズ羽山台店	羽山台校区まちづくり協議会
12月 15日	イオンモール	大牟田高等学校

【歳末たすけあい募金】

実施月日	実施場所	実施団体名
12月 3日	新鮮市場サカイ・マックスバリュ久福木店	銀水校区民児協
12月 10日	銀座通り商店街	中友校区民児協
12月 12日	ゆめタウン	大牟田中央校区まちづくり協議会
12月 12日	ゆめタウン	明光学園高等学校

⑦災害義援金の受付

受付期間	名 称	受付金額	受付件数
H28.4.15～R3.3.31	平成 28 年熊本地震災害	4,434,848 円	114 件
H30.7.10～R2.6.30	平成 30 年西日本豪雨災害	721 円	1 件
R1.9.2～R2.8.31	令和元年8月佐賀県豪雨災害	5,342 円	5 件
R1.10.16～R3.3.31	令和元年台風 19 号災害	89,232 円	7 件
R2.7.22～R2.9.30	令和 2 年島根県豪雨災害	1,200 円	1 件
R2.7.13～R2.12.28	令和 2 年大分県豪雨災害	21,100 円	2 件
R2.7.21～R2.12.28	令和 2 年佐賀県豪雨災害	1,350 円	1 件
R2.7.10～R3.3.31	令和 2 年福岡県豪雨災害	127,986 円	7 件
R2.7.10～R4.3.31 予定	令和 2 年熊本県南豪雨災害	24,983 円	5 件

② 令和 2 年度 共同募金配分委員会（令和 3 年度事業配分）

各団体からの助成金申請を共同募金配分委員会で審査し、令和 3 年度事業として総額 9,508,180 円の助成先を決定した。また活動ができなかった「みなと校区」への配分方法についても、共同募金配分委員会で審査され、最終的には理事会・評議員会で以下のとおり、決定した。



令和 2 年度 共同募金配分委員会

① 福祉教育推進校への助成（13 校）

(単位：円)

No.	学 校 名	事 業 名	助成額
1	駿馬小学校	地域との連携による福祉の心を育む福祉教育事業	42,500
2	玉川小学校	体験からの学び（自然・ひと・もの・ことを大切にする教育）	50,000
3	中友小学校	高齢者・園児との交流や地域と連携した福祉教育	75,000
4	白川小学校	ジュニア民生委員・児童委員活動	50,000
5	平原小学校	児童への福祉教育	40,000
6	羽山台小学校	高齢者および障がいのある人との交流を通じた福祉の心を育む教育	42,000
7	吉野小学校	障がい者・認知症・高齢者に関する福祉教育	35,000
8	倉永小学校	地域との連携・交流を通じた福祉教育	70,000
9	手鎌小学校	郷土学習を通じた福祉教育の充実	36,000
10	橋 中学校	認知症学習や保育実習、地域との交流、校内美化活動	35,000
11	白光中学校	誰もが住みよいまちづくりを考え行動することを目指す活動	50,000
12	宮原中学校	宮原地区 HAPPY プロジェクト	108,000
13	明光学園中学校・高等学校	地域の方々と女子中高生とのスマイル福祉交流活動	105,300
小 計			738,800

②福祉団体等への助成 (12 団体)

(単位：円)

No.	団体名	事業名	助成額
1	大牟田市ボランティア連絡協議会	減災に向けた研修	40,000
2	大牟田要約筆記の会 のぞみ	難聴者の交流・学習の場づくりと啓発活動	50,000
3	大牟田朗読の会	朗読・情報発信などに関する研修会	50,000
4	大牟田市老人クラブ連合会	教養事業（各種研修・会報紙の発行等）	225,000
5	大牟田市身体障害者福祉協会連合会	社会参加促進事業	200,000
6	NPO 法人つなぎ te おおむた	市民の災害対応力アップ事業	100,000
7	NPO 法人大牟田市母子寡婦福祉会	母と子のふれあい事業	100,000
8	NPO 法人大牟田市障害者協議会	第42回ふれあいパラリンピック＆サン・アビまつり	100,000
9	NPO 法人ともしび会	精神障がい者等の社会参加促進事業	165,680
10	NPO 法人大牟田知的障害者育成会	知的障がい者施設見学研修	229,000
11	大牟田市視力障害者福祉協会	福岡県盲人福祉大会、視力障がい者徒歩訓練	150,000
12	おおむた認知症カフェ連絡協議会	高齢者・障がい者・認知症を患う方の社会参加支援活動	80,000
小計			1,489,680

③令和3年度事業配分助成金総額

(単位：円)

助成先	助成額
福祉教育推進校	738,800 円
福祉団体・ボランティア団体・NPO 法人等	1,489,680 円
大牟田市社会福祉協議会地域福祉事業費	849,620 円
校区社会福祉協議会活動費（19 校区）	6,430,080 円
合計	9,508,180 円

③歳末たすけあい募金からの助成

今年度の実績額である 2,432,295 円については、全額、令和3年度の事業活動費として助成される。内訳については以下のとおりである。

助成先	助成額
年末年始校区交流行事等地域福祉活動費（19 校区）	1,714,262 円
生活困窮者対策（食料品・日用品等）支援	200,000 円
子ども・地域食堂支援事業	250,000 円
地域福祉事業費（サロン活動等）	268,033 円
合計	2,432,295 円

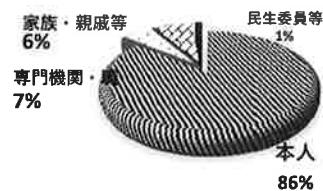
【基本目標3】生活課題の解決に向けた包括的な仕組みづくり 専門機関や住民と連携・協力し生活課題の解決を促進します。

(1) 生活困窮者自立支援事業(市受託事業)

① 自立相談支援事業

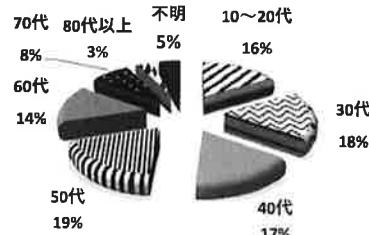
①相談経路

新規相談件数は1,261件。生活保護世帯61件と合わせると、1,322件の相談があり、昨年の3倍以上となっている。相談経路は「本人」(85.7%)、次に「専門機関・専門職」(7.4%)、「家族・親戚・知人」(5.6%)、「民生委員」「地域住民等」(1.3%)と続いている。今年度は新型コロナウィルスの影響による生活費(貸付)や就労に関する相談、7月の豪雨災害による貸付の相談が増加した。そのため「本人」からの相談が最も多くなっている。



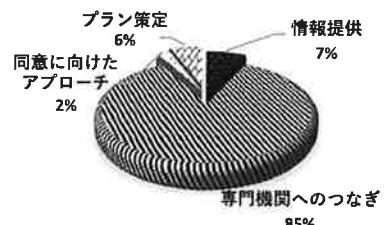
②年代及び相談内容

年代別の割合は、50歳代からの相談が18.9%、30歳代が18.2%、40歳代が16.6%、20歳代が14.7%となっている。新型コロナウィルスの影響による仕事・給与の減少、解雇等の相談が多く、例年と比較すると、働いている世代の相談件数が大幅に増加している。



③スクリーニング結果

スクリーニング結果については、今年度も「専門機関等へのつなぎ」が最も多く、相談件数の8割以上(84.9%)を占めている。また、新規プラン策定件数は76件である。新型コロナウィルスの影響による特例貸付資金への繋ぎ、就労や家賃の支払いに関する相談によるプラン策定が前年度と比較し増加している。情報提供・相談対応についても、他機関との調整や情報共有を行っている。プラン策定以外のケースも必要に応じては相談者へ連絡を取り、生活状況等の確認を行っている。



④専門機関へのつなぎ先

食料、日用品や家電などの生活物資の支援及び社会福祉法人地域公益活動協議会の生活困窮者レスキュー事業等に加え、医療機関やハローワーク等の専門機関と連携を図りながら、幅広い支援を実施した。

つなぎ先 ※重複有り	件 数	つなぎ先 ※重複有り	件 数
キャロットサービス	48 件	不動産会社	8 件
生活福祉資金	923 件	地域包括支援センター	2 件
生活保護制度	8 件	障害者相談支援事業所	4 件
食糧支援・日用品・家電等	72 件	医療機関	4 件
学習支援事業	6 件	就労支援ネットワーク	6 件
居住支援協議会	2 件	ハローワーク	1 件
社会福祉法人地域公益活動協議会	3 件	よろず相談	1 件
家計相談支援(グリーンコープ)	14 件	その他	3 件
合 計		1,105 件	

⑤相談窓口の周知

全戸配布の社協だより“きらり”及び事務局通信“きらり”に加え、生活支援相談室Facebookで支援の様子などについて発信した。また、メールでも相談を受付するなど、相談しやすくなるように努めた。さらには生活支援相談室のリーフレットを配布するとともに子ども支援者会議や地域住民向けの集会等で、相談室の概要説明を行った。



天領校区住民向け研修の様子

⑥食料支援の充実

相談を受ける中で、食べるものにも困っている人も多く、これまで同様「大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会」「グリーンコープ生活協同組合ふくおか」及び「フードバンク大牟田」と連携し、食料の提供を行ってきた。また新型コロナウイルスの影響による臨時休校に伴い、大牟田市、子ども支援ネットワーク協議会、教育委員会（学校ソーシャルワーカー）、小・中学校、大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会等と連携し、食料支援を実施した。さらには「カーブス大牟田」「セブンイレブンジャパン」や個人からの協力申し入れもあり、食料支援の輪が広がっている。

⑦専門機関との連携

高齢・児童・障がいなどの専門機関や不動産会社への相談など、各々の課題に応じた連携を行っている。また、食料以外の支援等においても、「大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会」をはじめ、他機関と連携し、日用品及び中古家電等の提供を実施した。

② 住居確保給付金事業

住居確保給付金事業は、離職・事業の廃業により、住宅を喪失している、または喪失するおそれのある人を対象とし、家賃相当額を支給することにより、住宅及び就労機会の確保に向けた支援を行っている。令和2年度は新型コロナウイルスの影響による収入減少の世帯も対象とし、要件が緩和されたため、相談件数が著しく増加した。事業実施に際しては、「生活保護受給者等就労自立促進事業」を活用した就労支援や自立相談支援における面談を通じて、特例貸付資金事業も活用した。

【住居確保給付金利用状況】

※令和2年度は延長・再延長・再々延長含む

	H3C年度	R1年度	R2年度
相談件数	7件	10件	252件
申請件数	2件	4件	154件
決定件数	2件	4件	139件

③ 学習支援事業

生活困窮者世帯や不登校の中学生等を対象に、市内3ヵ所で、学習会を行い、学力向上を図るとともに、子どもの居場所づくりに努めた。加えて、子どもや保護者に対して、進学に関する悩み事の相談に応じた。また、中学校を卒業した生徒も受け入れ、高校中退防止や学習機会の提供に努めた。さらに、より良い事業運営を行うために、月に1度、学習支援ボランティアとの情報共有や意見交換会を実施した。

今年度は新型コロナウイルス感染症や豪雨災害の影響により学習支援を開催できない期間もあったため、開設日数及び参加者数は減少した。

①実施場所・時間

※地域の縁側ひらばるは、特定非営利活動法人コレクティブに委託

実施場所	実施曜日・時間
手鎌地区公民館	毎週木曜日 18:00~20:00（第5木曜日を除く）
三川地区公民館	毎週木曜日 18:00~20:00（第5木曜日を除く）
※地域の縁側ひらばる	毎週土曜日 10:00~15:00

②参加者・ボランティア

(令和3年3月31日現在)

区分	手鎌地区公民館	三川地区公民館	ひらばる
登録者数（高校生）	R2年度	7名	1名
	R1年度	3名	1名
登録者数（中学生）	R2年度	4名	10名
	R1年度	8名	7名
登録者数（小学生）	R2年度	5名	11名
	R1年度	3名	14名
年間参加者数	延230名	延246名	延128名
学習ボランティア数	R2年度	6名	8名
	R1年度	7名	10名
			7名
			8名

④ 就労準備支援事業

ひきこもり等の理由ですぐには一般就労が難しいと思われる人に対し、①生活習慣形成のための生活自立支援、②就労の前段として必要な社会的能力の習得のための社会的自立支援、③一般就労のための基礎能力を身につける就労自立支援など、段階に応じた支援を行った。

①相談内容

利用件数は延149名360件。資産や収入等利用要件に該当しない場合や、他の制度につなぐことが多いため、就労準備支援プログラム作成件数は4件と少なかったが、外出し他者との会話ができるまで、継続的に訪問や電話、手紙、メールでやり取りをするなど、じっくり時間をかけ支援を行っている。

②就労体験先確保

本会の学童保育所やデイサービスと連携し、就労体験を実施した。また就労支援の入り口としてキャロットサービスで行う草取りや家事支援などとも連携した「キャロットDE就労体験」を実施している。また、障害者就労の支援機関とも連携し、就労体験先の確保に努めた。

No	就労体験先名	主な体験内容
1	大牟田市社会福祉協議会	・キャロットサービス同行 ・学童保育所支援員補助業務
2	キリスト者奉仕会	・クリーニング ・タオル製造 ・調理等
3	あけぼの会	・施設の整備 ・入所者の洗濯 ・施設まわりの草取り
4	ホワイト急便	・クリーニング工場 ・じゅうたん工場 ・接客等
5	ヤヨイサンフーズ	・食品加工工場業務
6	大塚食品	・きのこ製造業
7	エフコープ	・配達、倉庫内業務
8	イオン九州	・小売業補助
9	フェローズ	・コールセンター補助
10	リビングアエル小浜	・小規模多機能介護施設
11	それいゆ	・介護施設
12	白川病院	・小規模多機能介護施設

③専門機関との連携

ひきこもりの支援や発達障がいの疑いがある相談者の支援のため、障害者就労移行支援事業所やハローワークのカウンセラーと連携し、アセスメントを通して発達障がいの受診に繋げたのち、障害者就労支援機関への橋渡しを行った。

また、高齢者、障がい者、若者等のそれぞれの分野で就労支援を実施している機関が協働し、就労体験先の相互協力やスキルアップを目的とした「おおむた就労支援ネットワーク会議」へ、生活支援相談室の相談員が事務局員として参画している。

⑤ 一時生活支援事業

ホームレス等の一定の住居を持たない人、ネットカフェに寝泊まりし住居形態が不安定な人、またはDVなどの理由で緊急避難が必要な人等に対して、一定期間、宿泊場所を提供し、生活基盤を整えたうえで住宅の確保の支援を行った。必要に応じては、食料・日用品支援や就労支援も併せて実施した。

【利用件数（延べ）】

宿泊先	世帯数	宿泊日数
ホテル	17世帯	316泊
シェルター	3世帯	249泊

⑥ アウトリーチ支援強化事業

生活支援相談室にアウトリーチ支援員を配置し、主にひきこもりの人やその家族への支援強化を図ることを目的に、訪問活動や研修会等を以下のとおり実施した。

①訪問活動の実施

7月豪雨災害被災者への支援を行う地域支え合いセンター職員と同行し、訪問活動を延べ326件実施し、5名に対し個別ケース対応を行った。

②ひきこもり家族向け研修会及び相談会の実施

ひきこもりの人がいる家族を対象に、ひきこもり当事者を支える視点や家族を支える視点を学ぶことを目的に開催した。また、希望者には研修会終了後、相談会を併せて実施した。

【ひきこもり家族向け研修会及び相談会】

開催日	3月6日
場所	総合福祉センター大会議室、中会議室
参加者	研修会16名、相談会4名
内 容	【説明】「生活支援相談室について」 【講演】「自分らしく生きる～ダメじゃなくて向いてないだけ～」 【講師】天空の茶屋敷 代表 坂本治郎さん 【個別相談会】希望者のみ

③大牟田学校に行かない子を持つ親の会「ふきのとう」の支援

大牟田学校に行かない子を持つ親の会「ふきのとう」が開催する進路相談会の支援を行うとともに、県社協への活動助成金の申請手続きなどの支援を行った。

【進路相談会】

開催日	11月21日
場所	総合福祉センター大会議室、中会議室
参加者	29名
内 容	【説明】単位制、定時制、通信制高校について各学校より説明 【進路相談会】希望者のみ
参加校	○ 大牟田北高等学校 ○ 三池工業高等学校（定時制） ○ 立花高等学校 ○ 星槎高等学校 ○ 勇志国際高等学校 ○ 明蓬館高等学校 ○ C&S音楽学院

(2) 大牟田市権利擁護センターの設置・運営

認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が不十分な人が地域で安心して暮らせるよう、成年後見センター運営事業及び日常生活自立支援事業を一体的に展開することを目的に「大牟田市権利擁護センター」を設置し、以下の事業を実施した。

① 大牟田市成年後見センター運営事業(市受託事業)

大牟田市成年後見センター（以下「後見センター」という。）は、認知症、知的障がい、精神障がいなどの理由により、判断能力が不十分な人々に対して、権利を擁護するための「成年後見制度」の利用促進を図るとともに、それを支える市民後見人の養成・活用を行うことで、地域で安心して暮らせるように、後見センター運営事業について、以下のとおり実施した。

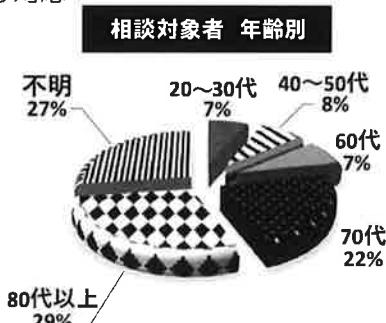
※令和3年3月末 市民後見人登録数 42名

①成年後見制度の利用や権利擁護に関する相談・助言及び対応

後見センターの初回相談者数は108件（実人数）。

相談対象者、相談経路、相談内容等別の傾向としては、昨年度と大差ない結果となっているが、「相談対象者」として圧倒的に高齢者が多く、「相談者」もその子ども世代の30代から40代が半数を占めている。

また、初回相談数のうち、初回のみで終結52件、継続支援56件、継続支援の延回数は288回となった。



②市民後見人の養成・登録

成年後見活用講座

目的	より多くの人が成年後見制度を学び、活用できるようになることで、地域社会における権利擁護の推進を図る。
開催日	9月4日～9月18日 毎週金曜日（全3回）
会場	総合福祉センター
参加者	受講生14名・修了生13名

市民後見人実務養成講座

目的	地域社会における権利擁護の推進を図るために、市民後見人登録申請及び活動を前提とした人材を養成する。
開催日	10月23日～12月4日 毎週金曜日（全7回）
会場	総合福祉センター
参加者	受講生6名、修了生5名

市民後見人の登録（第8期生の登録）

目的	本会で受任している被後見人等への支援者として活動する市民後見人登録者を選考・登録する。	
1月15日	令和2年度 市民後見人選考会 選考登録部会	参加者：4名 登録可：3名
2月26日	市民後見人登録手続き 締切	登録者：3名

③市民後見人活用による法人後見受任及び市民後見人活動の支援

今年度は新たに 22 件法人受任し、財産管理や市民後見人による訪問等の支援を行った。

法人後見受任

総受任件数	97 件(後見 73、保佐 19、補助 5)
実 働 件 数	58 件(後見 42、保佐 12、補助 4)
死 亡 件 数	39 件(後見 31、保佐 7、補助 1)

市民後見人活動

活動件数	22 件
活動人数	15 名

④成年後見制度や権利擁護に関する啓発

視察対応

12月9日	曾於市社会福祉協議会
-------	------------

⑤成年後見制度や権利擁護の関係機関との連携

■事務局として開催

運営管理委員会	後見センター事業の適正な運営を管理・監督することを目的として年2回開催（うち1回は書面開催）
受任検討委員会	市民後見人の活用を前提に、法人受任を検討することを目的として年10回開催（うち7回は書面開催）
執務管理部会	後見センターに登録した市民後見人の活動が円滑に実施されるよう監督・指導・助言することを目的として年11回開催
成年後見事務連絡会	成年後見制度の円滑な運用を図るため、各関係機関が集まり事務手続きを中心に情報共有を目的として年1回書面開催
成年後見ラウンド会議	成年後見制度の円滑な運用に必要な体制整備についての協議を行うことを目的として年1回開催

■委員または構成メンバーとして出席

大牟田市権利擁護連絡会	権利擁護に関わる支援者間での情報共有及び連携を図ることを目的に年2回出席
-------------	--------------------------------------

② 日常生活自立支援事業(県社協受託事業)

認知症・知的障がい・精神障がいの人のうち判断能力が不十分であるが、契約能力がある人を対象に事業を行った。今年度の新規契約者数は22名、解約者数は20名となっており、利用者数の増減では著しい変化はみられなかった。新規契約者のうち生活保護受給者が13名となっており、3月末での契約者数79名のうち生活保護受給者は56名と7割を占めている。本事業に協力して生活支援員の確保としては、キャロットサービス・ファミリーサポートセンターと協働し、「市民サポーター養成講座」を行い、今年度は7名の新規登録となった。

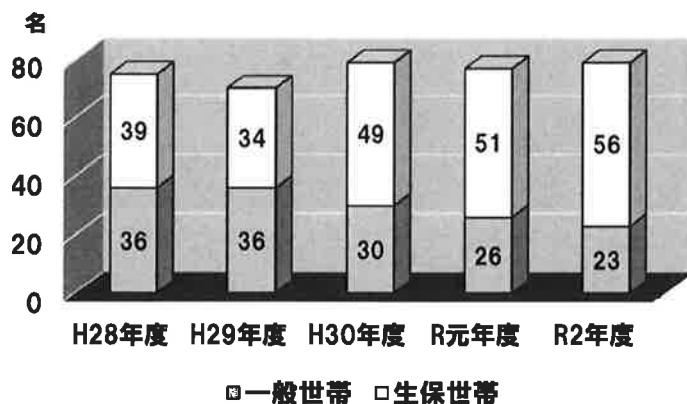
【日常生活自立支援事業支援実績】

(令和3年3月31日現在)

区分	利用者数	新規契約者	延べ利用件数	生活支援員
R2年度	79名(56名)	22名(13名)	1,534件(1,100件)	46名
R1年度	77名(51名)	16名(11名)	1,554件(1,123件)	46名
前年度比	102.6%	137.5%	98.7%	100%

※()内は生活保護受給者数

日常生活自立支援事業利用者の推移



(3) 生活福祉資金貸付事業(県社協受託事業)

低所得者、高齢者及び障がい者等の世帯に対して、生業、住宅、災害、福祉、就学、緊急小口、離職者等の各種資金の貸付相談の受付を行い、ケースによっては民生委員の協力を得ながら、借受世帯の自立に向けた指導、支援を行った。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による特例資金への申請が集中し、申込件数、金額ともに大幅な増加が見られた。

特例貸付資金の詳細については、P2「新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付等の緊急生活支援について」を参照。

【生活福祉資金受付等実績】

実績件数	相談者数	貸付決定件数	延滞利子支払免除申請件数	償還猶予申請件数
R2年度	923 件	2,230 件	2 件	4 件
前年度比	573.2%	1973.4%	(前年1件)	(前年0件)

【生活福祉資金貸付状況】

(単位：千円)

	H30 年度		R1 年度		R2 年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
総合支援資金	4	1,640	3	1,140	3	1,575
福 祉 費	7	5,441	10	7,000	11	7,933
福 祉 費 (生活保護世帯)	29	2,404	36	2,948	17	1,299
緊 急 小 口	25	2,330	18	1,393	19	1,848
教育支援資金	23	39,336	31	22,536	16	9,609
緊急小口（災害）	-	-	-	-	10	1,600
緊急小口（特例）	-	-	15	2,550	854	154,435
総合支援資金 (特例)	-	-	3	1,148	747	396,370
総合支援資金 延長（特例）	-	-	-	-	375	203,090
総合支援資金 再貸付（特例）	-	-	-	-	178	97,000
合 計	88	51,151	116	38,715	2,230	874,759

(4) 大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会への参加・連携・協働

「大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会」とは、市内の社会福祉法人が協働体として展開することで、活動に必要な「人材」「資材」「資金」「情報」を共有し、社会福祉法人の地域貢献活動の促進を図ることにより、市内に住む人が抱える制度の狭間にある問題解決に向けた支援（生活困窮者レスキュー事業等）及び政策提言を行うことを目的とする協議体であり、本会が事務局を担っている。

平成27年5月創設され、令和3年3月末で、27法人が加盟している。

① 主な活動実績

日 程	主 な 活 動 内 容
4月 10 日	臨時休校中の食料提供開始（～5月1日まで 15日間）
4月 24 日	令和元年度監査
4月 30 日	第1回役員会
5月 7 日	臨時休校中の食料提供開始（～6月2日まで 19日間）
5月 8 日	中央共同募金会助成金決定（100,000円）
5月 25 日	令和2年度定期総会中止による書面審議承認
6月 5 日	福岡県共同募金会助成金決定（200,000円）
6月 12 日	臨時休校中の食料支援及び見守り活動に伴う総括会議
6月 24 日	赤い羽根フードバンク活動等応援助成金決定（1,000,000円）
9月 29 日	第1回運営委員会
2月 10 日	高取校区ゴミ屋敷と呼ばれる家の清掃活動
3月 17 日	平原校区ゴミ屋敷と呼ばれる家の清掃活動

② 生活困窮者レスキュー事業

①食料支援

生活保護受給等や貸付金が出るまでのつなぎとして食料支援を実施した。

月 別	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	
食材提供	28件	55件	25件	22件	24件	26件	
	312食	518食	126食	104食	140食	242食	
グリーンコープ等	23件	58件	25件	24件	26件	26件	
	376食	550食	422食	290食	364食	390食	
合 計	51件	113件	50件	46件	50件	52件	
	688食	1,068食	548食	394食	504食	632食	
月 別	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
食材提供	30件	30件	13件	36件	38件	40件	367件
	142食	264食	96食	242食	270食	210食	2,666食
グリーンコープ等	29件	27件	12件	36件	27件	38件	351件
	294食	232食	124食	430食	338食	454食	4,264食
合 計	59件	57件	25件	72件	65件	78件	718件
	436食	496食	220食	672食	608食	664食	6,930食

※1件あたり、4日程度の食材提供（米、缶詰、レトルト食品、インスタント食品等）。

②日用品支援

生活保護受給等や貸付金が出るまでのつなぎとして日用品の支援を実施した。

月 別	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	
日用品提供	2件	0件	1件	7件	1件	2件	
月 別	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
日用品提供	0件	0件	0件	0件	0件	1件	14件

③つなぎ資金貸付

NO	つなぎ資金貸付使途	貸付金	貸付残額	備考
1	生活福祉資金までの生活費	12,000円	12,000円	滞納
2	生活福祉資金までの公共料金立替	10,775円	0円	済
3	生活福祉資金までのエアコン代立替	77,000円	0円	済
4	生活福祉資金までのエアコン代立替	71,000円	0円	済
5	生活福祉資金までのエアコン代立替	100,000円	0円	済
6	給与までの公共料金立替	10,015円	0円	済
7	生活福祉資金までの生活費	15,000円	0円	済
8	給与までの生活費	10,000円	10,000円	滞納
9	生活福祉資金までのエアコン代立替	67,000円	0円	済
10	年金までの公共料金立替	1,855円	0円	済
11	生活保護費までの入居必要経費立替	18,500円	18,500円	未到来
合計		393,145円	40,500円	

月別	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
貸付件数	1件	1件	0件	0件	3件	1件
月別	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分
貸付件数	0件	0件	2件	1件	1件	1件

④ゴミ屋敷と呼ばれる家（以下「ゴミ屋敷」）の清掃活動

校 区	日 程	参 加 人 数
高取校区	2月10日	18名
平原校区	3月17日	26名



高取校区ゴミ屋敷清掃活動



平原校区ゴミ屋敷清掃活動

⑤臨時休校中の食料提供

新型コロナウイルス感染予防対策による臨時休校中に“食に困るかつ見守りが必要な子どもたち”への食料支援について「大牟田市子ども支援ネットワーク協議会」より依頼があり、弁当・パンを購入し、延 1,787 食を小・中学校へ届けた。

（キリスト者奉仕会・母子会・だいふくより弁当・パンを購入）

実施期間	提 供 数
4月10日～5月1日（15日間）	弁当 377食 パン 405食
5月7日～6月2日（19日間）	弁当 292食 パン 713食



(5) 大牟田市居住支援協議会活動支援事業

(国交省:共生社会実現に向けた住宅セーフティネット機能強化・推進事業補助)

地域資源としての空き家の活用と住宅確保要配慮者の円滑な入居促進及び安心して暮らせる仕組みづくりを推進するため、事務局として不動産・福祉・医療・行政等の各団体と連携して取り組んだ。

① 相談・支援体制の充実

空き家所有者及び入居希望者の相談対応を行った。

相談件数：91件（入居相談：70件・建物相談：11件・その他：10件）

② 入居支援の実施及び空き家活用の促進

所有者より物件提供があった空き家を活用し、住宅確保要配慮者の入居マッチングを実施した。 契約件数：2件（単身高齢者世帯1件・母子世帯1件）

③ 定期的な相談会の実施・住まいに関するセミナーの開催

① 空き家活用無料相談会の開催（年2回）

【開催日】8月9日

【相談件数】8件

【会場】総合福祉センター 大会議室

【開催日】1月31日

【相談件数】12件

【会場】総合福祉センター 大会議室



② 「空き家セミナー～あなたの実家について考えよう！」の開催

空き家所有者（将来の所有者を含む）が、自ら空き家等の問題を認識し、予防対策や適切な維持管理の必要性について理解してもらうことを目的に開催した。

【開催日】10月31日

【会場】イオンホール（イオンモール大牟田）

【参加者】70名



④ 居住支援協議会事務局機能の移行

これまで本会が担っていた居住支援協議会事務局を、令和3年度から「NPO 法人 大牟田市ライフサポートセンター」へ移行するに伴い、1月から3月に引継ぎ作業を行った。

(6) おおむた子ども・地域食堂ネットワーク会議への参加・連携・協働

市内6校区の子ども・地域食堂関係者、社会福祉法人甘木山学園、本会等が連携し、「おおむた子ども・地域食堂ネットワーク会議」を開催した。おおむた子ども・地域食堂ネットワーク会議は関係者の情報共有、合同研修を実施することで食堂運営を円滑に行えることを目的としている。今年度は新型コロナウイルス感染症対策についての講習会を行い、各食堂の今後の活動状況についての意見交換会を実施した。また、社会福祉法人甘木山学園より6校区の子ども・地域食堂に対し、運営助成金を受けた。



おおむた子ども・地域食堂ネットワーク会議	
開催日	6月30日
参加団体	大牟田中央校区子ども食堂、大正校区子ども食堂、高取ふれあい子ども食堂、吉野ふれあい食堂、平原ふれあいサロン食堂、はやめカッパ食堂、社会福祉法人甘木山学園、大牟田市社会福祉協議会

① 子ども・地域食堂の支援

多世代が食を通じて交流できる場として、市内6校区の子ども・地域食堂の運営を支援した。具体的には、食堂の立上げ支援や子ども・地域食堂に活用してほしいとの申し出を受けて、市内外から本会へ寄贈された食料品や米等を各食堂へ配分した。また、本会より、歳末たすけあい募金配分で運営助成金を交付した。

【子ども・地域食堂一覧】

(令和3年3月末現在)

校区名	名称	開催時間・場所
大牟田中央	大牟田中央校区子ども食堂	毎月第3土曜日 11:00～13:00 よらんかん
大 正	大正校区子ども食堂	毎月第2土曜日 11:00～13:00 大正校区コミュニティセンター
高 取	高取ふれあい子ども食堂	毎月第3土曜日 11:00～13:00 米の山ふれあいセンター
吉 野	吉野ふれあい食堂	毎月第2土曜日 11:30～13:00 吉野地区公民館
平 原	平原ふれあいサロン食堂	毎月第1土曜日 11:30～13:30 総合福祉センター
駒 馬	はやめカッパ食堂	毎月第4土曜日 11:30～13:00 駒馬地区公民館

② コロナ禍での子ども・地域食堂

コロナ禍での子ども・地域食堂の運営は、アクリル板の設置、検温、消毒、ソーシャルディスタンス、時間延長をするなど密にならないように、それぞれ工夫しながらも運営されていたが、緊急事態宣言中や感染症防止対策ができないときは、中止を余儀なくされた。本会としても、コロナ禍での食堂等の衛生環境に対して、必要に応じて助言するとともに、様々な情報提供を行った。

(7) 各種相談事業

① 行政書士相談

毎月第3水曜日に行政書士による相談会を実施し、家庭、離婚、金銭貸借、財産相続、事故等の相談に親身になって対応し、内容によっては無料弁護士相談や関係機関へ橋渡しをした。令和2年度の相談件数は26件であった。

② 福祉サービス苦情解決相談

在宅福祉サービス等利用における様々な問題について、当事者間で解決できない場合は、「第三者委員会」を設置し、その解決を図ることとしている。

令和2年度は、相談依頼がなく、開催していない。

4. 安心して子育てできる環境の整備に努めます。

(1) くぬぎ保育所の運営

令和2年度は、新型コロナウイルス対策の為、制限がある中での保育所運営となり、感染予防に十分に配慮しながら、健常児と障がい児との統合保育、食育の推進を引き続き行った。また、施設内のウイルス除菌・消毒作業（バイオプロテクト）を行い、園児へ安全な保育環境を提供することが出来た。年度当初は、園児数 113 名でスタートし、年度末には 124 名の園児が在籍した。



のびのび育てくぬぎっ子

【四半期ごとの園児数】

(単位：人)

区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
6月	8	17	22	22	23	24	116
9月	9	17	22	22	23	24	117
12月	15	17	22	22	23	24	123
3月	16	17	22	22	23	24	124

① 主な行事内容

実施月日	行事内容	実施月日	行事内容
4月 4日	進級式	10月 10日	運動会
6月 8日	プール開き	10月 29日	稻刈り
6月 24日	田植え体験	12月 8日	餅つき
7月 22日	お祭りごっこ 夜のお楽しみ会（年長児）	12月 19日	クリスマス会
8月 29日	保護者会主催バザー	3月 20日	卒園式・リズム修了式

①年長児・夜のお楽しみ会

園児と職員で、通常保育では経験できない夕食づくりやグループごとの出し物披露を行った。宿泊は出来なかつたが、経験を通して心に残る1日となった。



お楽しみ会での夕食

②運動会

10月 10日に運動会を開催した。新型コロナウイルス感染予防対策で時間を短縮しての開催となつたが、日頃の保育で培った力を園庭の大舞台で堂々と披露することが出来た。



運動会の様子

③クリスマス会

園児が楽しみにしている毎年恒例の行事であり、歌や手遊びをステージの上で堂々と披露した。例年、保護者の観覧も行っていたが、今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、保護者の観覧は年長児のみとし、ホームページにて、様々な催しを動画配信した。



ステージで歌を披露

④卒園式・リズム修了式

力強く握りしめた卒園証書。24名の子ども達が巣立って行った。リズム修了式では、0歳児からリズム運動を経験し積み上げてきた力を十分に発表出来た式となった。



卒園証書授与式

② 食育の推進

安全な食材でバランスの良い食事を提供するとともにみそ作り、田植え、稲刈り等、「食」に関心が持てるような活動を積極的に取り入れ、経験を通して「食」の大切さを園児たちに伝えた。また、年長児が行う田植え・稲刈りで収穫した“もち米”を使って、伝統行事である「餅つき」を行った。



餅つき

③ 安全な保育環境の提供

新型コロナウイルス感染予防策のひとつとして、施設内のウイルス除菌・消毒（バイオプロテクト）作業を行った。とくに保育室の天井・壁は簡単に消毒・除菌が出来ないため、今回の作業をすることで、より安心して過ごす事が出来るよう、保育環境を整えた。



保育室内消毒・除菌作業

(2) 放課後児童健全育成事業の実施(市受託事業)**① 学童保育所運営(三池・高取・白川【第1】・白川【第2】・大牟田中央)**

放課後児童対策として、昼間児童の養育ができない家庭などの児童に対して、適切な遊びと生活の場を提供するとともに、各学童保育所・クラブにおいては、地域組織等と連携し多世代間交流事業を実施した。

なお、令和2年度は、令和2年3月から全国的に学校が休校となり、それに伴い、各学童保育所・クラブは早朝から開所することになり、4月～5月は、マスク不足の中、新型コロナウイルス感染予防対策を講じながらの保育所運営となった。



えいるから贈られた貼絵

(令和3年3月31日現在)

学童保育所名	三 池	高 取	白 川 【第1】	白 川 【第2】	大牟田中央	合 計
児童数(名)	36	15	36	29	37	153

② 学童保育所支援員の研修

今年度は、コロナ禍で多くの研修が中止となったが、毎月の支援員会議での運営状況報告・事例検討をはじめ、救急救命講習などの研修を実施した。また、支援員のスキルアップを目的とした研修にも参加した。その他、子ども達が安心して学童生活を送ることができるよう、新型コロナ感染予防対策のための資料を手作りし、子ども達を対象とした感染防止教室を実施した。



感染防止教室の資料

【主な研修内容】

実施日	内 容	参加者
9月21日	令和2年度福岡県放課後児童支援員等資質向上研修	1名
10月26日	令和2年度福岡県放課後児童支援員等資質向上研修	1名
11月17日	救急救命講習会	16名

(3) 大牟田市ファミリー・サポート・センター事業運営(市受託事業)

子育ての手伝いをしたい人（協力・相互会員）と子育ての手助けをしてほしい人（利用会員）とのコーディネートを行うとともに、協力・相互会員養成講座を実施した。また様々な機会を通じて事業の周知啓発に努めた。

① 会員の登録及び活動

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学校が休校になり、保護者の仕事や病院受診時の子どもの預かり等が多くなった。また、定期援助（送迎や預かり）等も引き続き行っているため、昨年度と比較すると利用件数は増加した。

利用会員	699名	105%	1,313回（242回） 前年度比 105% ※（ ）内はキャンセル
協力会員	125名	109%	
相互会員	45名	112%	
合 計	869名	106%	

② 協力・相互会員養成講座の実施

協力・相互会員養成講座を2回開催。第1回目は、ファミリー・サポート・センターとキャロットサービス、日常生活自立支援事業と協働し、「市民サポーター養成講座」として行った。第2回目は、「子育てサポーター養成講座」として、つどいの広場のサポーターの養成を兼ねて開催した。



サポーター養成講座

実施日（回数）	内 容	新規登録者数
11月10日～11月24日 (全5回)	協力会員養成講座（市民サポーター養成講座として開催）受講者数：延18名	協力会員：8名 相互会員：1名
1月26日～2月16日 (全6回)	協力会員養成講座（子育てサポーター養成講座として開催）受講者数：延12名	協力会員：3名 相互会員：5名

※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、人数を制限して行った。

③ ステップアップ講座の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度受けていない人のみに声をかけ、子どもの安全に関する講座やAEDを用いた救急救命講習を行った。

実施日	内 容
11月26日	子どもにおこりやすい事故と予防
12月 1日	普通救命法 心肺蘇生法・AEDの使い方
2月 9日	子どもにおこりやすい事故と予防
2月 9日	乳幼児の心肺蘇生法・AEDの使い方

(4) 大牟田市地域子育て支援拠点事業・つどいの広場事業運営(市受託事業)

つどいの広場（大牟田市市民活動等多目的交流施設である内）において、3歳以下の子どもとその保護者が気軽に集い交流できるような雰囲気作りを行い、子育て中の親の悩みごとや困りごとの相談に対応しながら、子育てへの負担感の緩和に努めた。発達障がいやグレーゾーンといわれる子どもが増えてきたため、気になる親子については、早い段階から専門機関に繋いだ。また、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を行なながら、子育て講座、親子を対象としたイベントの企画及び子育てサポーター養成講座等を実施した。

① 子育て親子の交流の場の提供と交流促進

【利用者の登録・利用状況】

年 度	登録組数	利用組数	大人	子ども	総人数	相談件数
R2年度	378組	3,730名	3,967名	4,434名	8,401名	1,200件
R1年度	653組	4,987名	5,388名	6,203名	11,362名	1,812件
前年比	58%	75%	74%	71%	74%	66%

② 子育て等に関する相談、援助の実施（つどいの広場アドバイザーの活用）

つどいの広場内での相談や「にこにこ子育て」「栄養士相談」「保健師相談」「歯育教室」「ベビーマッサージ」などにおいて保育士、栄養士、保健師、歯科衛生士、助産師等のアドバイザーによる相談を行った。とくに、離乳食の進め方や好き嫌いについて悩む保護者が多いため、食事が親子にとって“楽しく幸せな時間”になるよう「離乳食教室」を月齢別に開催した。

【離乳食教室】

年 度	利用組数	大人	子ども	総人数
R2年度	16組	17名	17名	34名
R1年度	48組	51名	47名	98名
前 年 比	33%	33%	36%	35%



離乳食教室の様子

③ 地域の子育て関連情報の提供

保育所、幼稚園、認定子ども園関連やサークル、遊び場紹介等広場内にて掲示及びチラシの配布を行い情報の提供に努めた。

④ 子育てサポーターの育成支援の実施

①つどいの広場サポーター活動状況

つどいの広場子育てサポーターは、講座中の託児、各種イベントの協力のほか、広報や季節ごとの制作物の手伝いを行った。

年 度	サポーター数	活動件数
R2年度	52名	293回
R1年度	53名	384回
前 年 比	98%	76%



サポーターの企画による出し物

②つどいの広場サポーター養成講座の実施

「ファミリー・サポート・センター協力会員養成講座」と合同で行い、9名が新規サポーターとして登録を行った。また、現サポーターのステップアップ講座も兼ねて実施した。

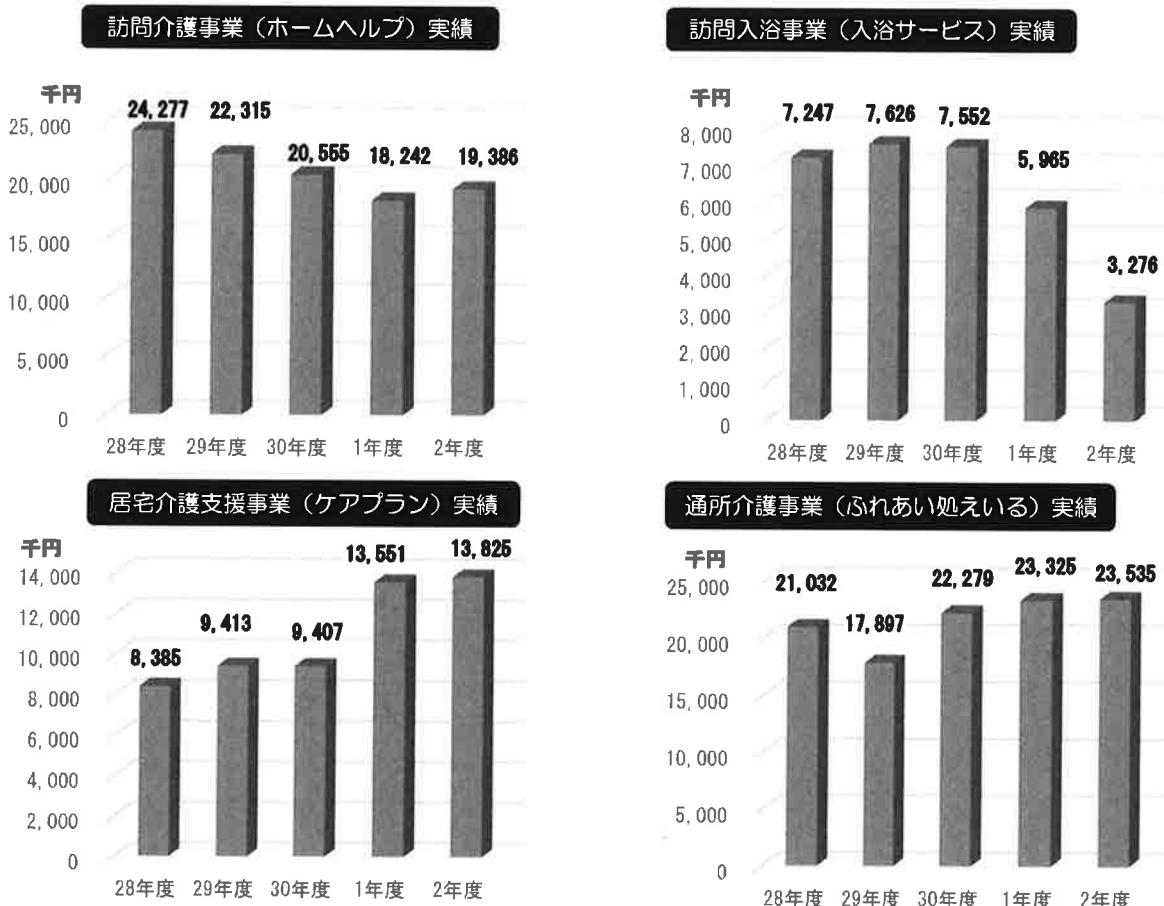
期 間	内 容
1月26日～ 2月16日（全7回）	ファミリー・サポート・センター協力会員養成講座と合同開催

5. いつまでも元気に暮らすために在宅生活を支援します。

(1) 高齢者福祉対策の推進

① 介護保険事業の実施

訪問介護（生活援助・身体介護等）、訪問入浴（入浴車による訪問入浴）、居宅介護支援（ケアプランの作成等）、通所介護（デイサービス）の事業を実施し、事業対象者、要支援、要介護者の在宅生活を支援した。



【令和2年度介護保険事業の総括】

- 訪問介護事業では前年度より、延利用件数については221件増、収入面では1,144千円増となった。新規利用者の増加や既存利用者の利用回数増に加え、令和2年度より処遇改善加算（I）を取得したことでも増収の要因となった。
- 訪問入浴事業では前年度より、延利用件数については206件減、収入面では2,689千円減となった。上半期に新型コロナウィルス感染拡大防止に伴うサービス利用制限を行ったことや体調不良による入院、逝去が収入減の要因となった。
- 居宅介護支援事業では、要介護者の月平均利用者数は67件で前年度より、6件増であった。利用者総数（要支援含む）は前年度に比べ75件減っているものの、要介護者の割合が増えたため、274千円増となった。
- 通所介護（デイサービス）事業では前年度より、延利用件数は51件減、収入面では210千円増となった。これは、新型コロナウィルス感染拡大防止により利用制限を行ったことで延利用件数は減少したものとの、既存利用者の要介護度変更に伴い、介護報酬が増額となった。

※4事業合計として、前年度実績と比較すると1,061千円の収入減となった。

【各年度事業実績】

事業名	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
訪問介護 サービス	収入(円)	24,277,610	22,315,580	20,555,167	18,242,393
	件数(件)	7,363	6,866	6,005	5,915
訪問入浴 サービス	収入(円)	7,247,680	7,626,040	7,552,172	5,965,084
	件数(件)	568	586	580	456
居宅介護 支援事業	収入(円)	8,385,220	9,413,660	9,407,690	13,551,380
	件数(件)	832	875	897	1,359
通所介護 (えいる)	収入(円)	21,032,681	17,897,900	22,278,801	23,325,703
	件数(件)	2,706	2,362	2,803	2,964
総合計	収入(円)	60,943,191	57,253,180	59,793,830	61,084,560
	件数(件)	11,469	10,689	10,285	10,694
					10,583

② 介護予防・相談センターの運営（市受託事業）

中央地区地域包括支援センターのサブセンターとして、介護予防の普及・啓発を目的とした様々な介護予防啓発教室や健康相談の場を設け、地域住民の健康増進に努めた。また、介護認定により要支援と認定された高齢者及び日常生活総合事業対象（一部機能低下が見られる）高齢者に対して、介護予防プラン等を作成し、心身の健康保持や生活の安定のために、関係機関・サービス実施事業者と連携して生活支援を行った。加えて、地域の民生委員等と高齢者宅を同行訪問し、様々な相談に応じた。

【各年度事業実績】

事業名	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
介護予防・ 相談センター	収入(円)	5,967,000	5,867,800	6,225,800	4,208,780
	件数(件)	904	899	1,029	469
					441

【中央地区地域包括支援センター事業等への協力】

事業内容	開催場所
もの忘れ予防・相談検診	中央地区公民館
ほっと安心ネットワーク訓練	平原校区周辺

③ 福祉サービス全体研修

日程	講師	研修内容
4月15日	各担当職員	新型コロナウイルス感染予防について
5月20日	各担当職員	介護予防について
6月17日	各担当職員	事故防止について
7月15日	各担当職員	接遇について
8月19日	各担当職員	倫理及び法令遵守
9月16日	市社協職員	交通安全について
10月21日	各担当職員	個人情報保護について
11月21日	大牟田市立病院 川後田美穂子さん	感染予防について
12月18日	各担当職員	緊急時対応について
1月15日	各担当職員	認知症について
2月19日	各担当職員	プライバシー保護について
3月18日	各担当職員	看取りケアについて

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修会は行わず個別に資料配布等で対応。

④ ホームヘルパー実習受入

日程	実習受入先	受入人数
2月16日～18日、3月11日	九州大谷短期大学	2名

⑤ 介護支援専門員実務研修実習受入

日 程	受入人数
令和2年5月14日 (1日間)	1名
令和3年3月25日 (1日間)	3名

⑥ 「在宅介護者の会」の活動支援

在宅介護者に対する情報提供、相互交流を目的とする「在宅介護者の会」の事務局を担い、様々な活動支援を行った。

■大牟田市在宅介護者の会「げんきかい」…会員数 14名

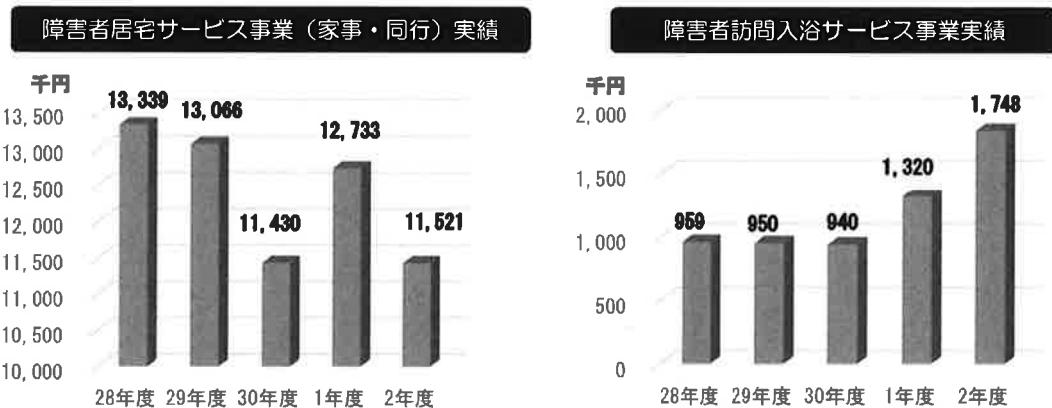
【目 的】在宅介護者が本音で語り合い、交流することを通じて、仲間づくりを行うとともに「介護」にかかる課題を解決していくことを目的に実施。

【定例会】毎月第4水曜日に介護体験を語るおしゃべり会を中心に行なうとともに学習会、レクリエーションなど

(2) 障がい児・者福祉サービス事業の推進

① 障害者自立支援サービス事業

障害区分認定を受けた在宅の障がい者に対して、居宅サービス（家事・通院支援・視覚障害者同行援護）及び訪問入浴（入浴車による訪問入浴）の2事業を実施し、在宅生活を支援した。



【令和2年度障害者自立支援サービス事業の総括】

■居宅サービス事業では、前年度より事業件数171件減、収入面では1,211千円減となった。新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う会議やイベントの中止、趣味活動等の外出控えが減収の大きな要因となったが、中でも、福祉有償運送事業の利用件数は359件、利用負担金総額92千円となった。令和元年度より運用開始した当該事業は、同行援護サービス利用者の利便性の向上に大きな役割を果たし、買い物や通院、官公庁への手続等の利用が増加した。

■障害者入浴サービス事業では前年度と比較すると428千円増収となった。利用者2名ともに週2回ペースで、毎月8~9回実施した。

※2事業合計として、前年度実績と比較すると783千円の収入減となった。

【各年度事業実績】

事業名	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
障害者居宅サービス事業	収入(円)	13,339,880	13,066,420	11,430,560	12,733,010
	件数(件)	1,832	1,678	1,642	1,810
障害者入浴サービス事業	収入(円)	959,500	950,000	940,500	1,320,000
	件数(件)	101	100	99	132
総合計	収入(円)	14,299,380	14,016,420	12,371,060	14,053,010
	件数(件)	1,933	1,778	1,741	1,942

6. 地域福祉の推進役を果たすために市社協の基盤を強化します。

(1) 大牟田善意銀行の預託状況

【寄付金等預託状況】

区分	H30 年度	R1 年度	令和2 年度
一般寄付（件数）	302 件	277 件	260 件
一般寄付（金額）	4,930,814 円	5,034,779 円	※17,241,690 円
物品寄贈件数	14 件	20 件	52 件

※令和2年度は、大口寄付、災害関連寄付などによる増

(2) 賛助会員加入状況

【賛助会員数等の推移】

区分	H30 年度	R1 年度	令和2 年度
会員数（個人）	374 名	359 名	396 名
会員数（企業・団体）	71 件	71 件	19 件
総額	1,099,357 円	1,095,000 円	470,000 円

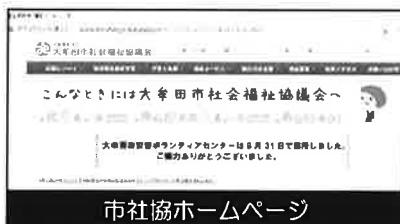
(3) 広報の充実

① ホームページの運営

ホームページの内容の充実や改善を図り、本会及びくぬぎ保育所のホームページにて、行事開催案内や報告など、様々な取り組みについて、随時情報提供を行った。また、7月に開設した「大牟田市災害ボランティアセンター」の運営時には活動状況等を随時、フェイスブックにて情報発信を行った。

①社協ホームページ (<http://www.omshakyo-kizuna.com/>)

②くぬぎ保育所ホームページ (<http://www.omshakyo-kizuna.com/kunugi/>)



市社協ホームページ



災害ボラセン フェイスブック

② 広報紙 社協だより“きらり”の発行

全世帯を対象に、年4回（4月・7月・10月・1月）、社協情報紙“きらり”を発行し、本会の事業活動報告や取組みなどの情報提供を行った。



③ 事務局通信 “きらり” の発行

賛助会員等を対象に、毎月社協事務局通信 “きらり” を発行し、本会の事業についてタイムリーな情報提供を行った。

発行	主な内容	発行	主な内容
4月	■大牟田市権利擁護センター開設について ■令和2年度大牟田市社会福祉協議会 事業計画について	10月	■赤い羽根共同募金について ■市民サポーター養成講座案内 ■成年後見活用講座報告
5月	■新型コロナウイルス対策 特例資金貸付案内 ■令和元年度大牟田市社会福祉協議会 事業報告	11月	■社会福祉士実習生の活動報告 ■ボランティアセンターについて ■7月豪雨チャリティーコンサート案内
6月	■マスク寄贈のお礼について ■新型コロナウイルス感染拡大防止対策について	12月	■大牟田市地域支え合いセンター設置について ■訪問入浴体験会とティサービス見学会報告 ■第1回サロン連絡会報告
7月	■コロナ禍におけるふれあいサロン活動紹介 ■子ども・地域食堂の再開について	1月	■新年挨拶 ■子育てサポーター養成講座案内
8月	■大牟田市災害ボランティアセンターの 開設と活動紹介 ■成年後見活用講座案内	2月	■赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金報告 ■生活支援相談室について ■ひきこもり家族向け研修会案内
9月	■大牟田市災害ボランティアセンター閉所 ■「床下対応講習会」の開催報告	3月	■第12回大牟田市地域福祉大会中止に伴う 被表彰者・団体の紹介

(4) 総合福祉センターの運営

① 総合福祉センター利用状況

(単位：円)

	H30年度	前年比	R1年度	前年比	R2年度	前年比
会場使用料収入 ①	1,215,937	92.2%	1,224,427	100.6%	1,591,967	130.0%
賃 貸 料 収 入 ②	6,546,780	99.1%	6,295,274	96.1%	5,928,373	94.2%
手 数 料 収 入 ③	580,180	104.3%	459,855	79.2%	461,847	100.4%
利 用 収 入 計 (①+②+③)	8,342,897	98.4%	7,979,556	95.6%	7,982,187	100.0%

② 総合消防訓練

本会では、年に2回消防訓練を実施している。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、様々な制約が求められる中、職員一人ひとりが非常時の対応ができるよう訓練を実施した。1回目の9月14日は、初期消火や消防署への通報、避難誘導等の訓練を実施した。また2回目の訓練は2月に実施を予定していたが、緊急事態宣言のため、実地訓練に変わり、避難誘導訓練に関する動画を視聴し、担当部署ごとに意見交換を行った。

(5) 福祉避難所の開設

豪雨災害や台風接近に伴い、大牟田市の要請を受け、総合福祉センター内に福祉避難所を開設し、要配慮者を受け入れた。受け入れに際しては、検温や消毒、ゾーニング等を行い、新型コロナウイルス感染予防対策に努めた。

	福岡県 7月豪雨災害	台風接近	合 計
期 間	7月6日～7日	7月7日～8日	9月6日～7日
避難者数	4世帯8名 (うち要配慮者4名)	1世帯3名 (うち要配慮者1名)	5世帯8名 (うち要配慮者6名)
対応職員数	4名(交代制)	3名(交代制)	7名(交代制)
開設時間	7月6日15:30から7月8日15:30まで	13:00～翌日 13:00	

(6) 車椅子貸出事業

在宅の高齢者・障がい(児)者等に対して、日常生活の便宜と介護者の負担軽減を図るために、延133名に無料で車椅子を貸出した。

(7) 視察受入及び講師派遣状況

日 程	視察受入及び講師派遣
10月 20日	□中間市社会福祉協議会視察（生活支援相談室）
11月 17日	■柳川市地域子育て支援拠点「このゆびとまれ」研修（親子で取り組む防災について）
12月 9日	□曾於市社会福祉協議会視察（成年後見センター、生活支援相談室）
2月 9日	□福岡県議会厚生労働環境委員会視察（大牟田市地域支え合いセンター、特例貸付について）
3月 24日	■大牟田コスモスの会研修（東日本被災地支援とその学びを生かした大牟田豪雨災害支援について）

□…視察等対応 ■…講師派遣



曾於市社会福祉協議会視察



福岡県議会厚生労働環境委員会視察

(8) 実習生の受入

① 社会福祉士相談援助実習生の受入

本会が相談援助実習の受入れを行う意義は、福祉人材の育成である。それは社会福祉士取得を目指す学生を育てるだけでなく、職員が事業の意義を再認識することや手法の再検討のきっかけを得ることに繋がると考えている。今年度は夏季に4名、春季に2名を受け入れた。



ふれあいサロン同行訪問の様子

受入期間	【夏季】(24日間) 10月2日～10月30日	【春季】(24日間) 2月17日～3月22日
受入人数	共生館国際福祉医療カレッジ 西南学院大学 福岡県立大学 久留米大学 各1名	九州看護福祉大学 2名
実習内容	・社会福祉協議会の役割と事業概要 ・小地域ネットワーク活動 ・住民参加型在宅福祉サービス ・災害ボランティアセンターの取り組み ・地域支え合いマップの取り組み ・社会福祉法人地域公益活動協議会の取り組み	・成年後見制度 ・福祉委員の役割 ・介護保険事業サービス ・共同募金運動の概要 ・生活支援相談室の取組み 等

② 障害者就労・自立支援センターからの実習生受入

障害者就労支援の一環で、職場実習の場として、下記のとおり受け入れた。ジョブコーチ指導のもと、共同募金運動開始の準備に必要な事務作業を行った。

受入期間	① 8月18日～8月28日 (9日間) ② 9月17日～9月29日 (7日間)
受入人数	延2名
実習内容	共同募金関係庶務、資料封入等



共同募金資料封入作業の様子

(9) 新型コロナウイルス感染症対策について

① 生活福祉資金貸付制度による特例貸付について

P2 「新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付等の緊急生活支援について」
参照

② 住居確保給付金について

P2 「新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付等の緊急生活支援について」
参照

③ 学校臨時休校中の食料支援及び見守り活動

P26 「臨時休校中の食料提供」 参照

④ 学校臨時休校中における放課後児童健全育成事業（学童保育所・クラブ）の関所 P30 「放課後児童健全育成事業等の実施」 参照

⑤ 主なイベント・講座等の中止・変更等について

日 程	事 業 等 名	対 応
10月下旬	学童っこつどい	中止
10月～11月	市民サポーター養成講座	参加者制限、全7回から5回へ縮小
11月中旬	家族で行こわくわくday	中止
10月～12月	市民後見人実務養成講座	全10回から7回へ縮小
1月下旬	地域リーダー合同研修会	中止
2月14日	第12回地域福祉大会	縮小（メッセージ付き功労者表彰状送付）
2月26日	成年後見フォーラム	中止
2月～3月	第2回サロン連絡会	中止

令和2年度 各種会議・各種委員会報告

(1) 理事会開催状況

会議名	月日	内 容
第1回理事会 (みなし)	6月 5日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 1号…令和元年度 事業報告について ・議案第 2号…令和元年度 資金収支決算について 令和元年度 監査報告 ・議案第 3号…令和2年度 補正予算(案)について ・議案第 4号…第1回評議員会(みなし評議員会)の開催について
第2回理事会 (みなし)	7月 10日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 5号…理事候補者の推薦について ・議案第 6号…第2回評議員会(みなし評議員会)の開催について
第3回理事会	8月 20日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 7号…副会長の選定について ・議案第 8号…令和2年度 補正予算(案)について ・議案第 9号…第3回評議員会(みなし評議員会)の開催について
第4回理事会	9月 28日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 10号…令和2年度 補正予算(案)について ・議案第 11号…第4回評議員会(みなし評議員会)の開催について
第5回理事会	12月 2日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 12号…令和2年度 補正予算(案)について ・議案第 13号…第4次大牟田市地域福祉実践計画策定期度の変更 (延長)について ・議案第 14号…第5回評議員会(みなし評議員会)の開催について
第6回理事会	2月 15日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 15号…令和2年度 補正予算(案)について ・議案第 16号…第6回並びに第7回評議員会(みなし評議員会) の開催について
第7回理事会	3月 15日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 17号…令和2年度 補正予算(案)について ・議案第 18号…令和3年度 事業計画(案)について ・議案第 19号…令和3年度 資金収支予算(案)について ・議案第 20号…役員等賠償責任保険契約について

(2) 評議員会開催状況

会議名	月日	内 容
第1回評議員会 (みなし)	6月 24日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 1号…令和元年度 事業報告について ・議案第 2号…令和元年度 資金収支決算について 令和元年度 監査報告 ・議案第 3号…令和2年度 補正予算(案)について
第2回評議員会 (みなし)	7月 29日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 4号…理事の選任について
第3回評議員会 (みなし)	9月 2日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 5号…令和2年度 補正予算(案)について
第4回評議員会 (みなし)	10月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 6号…令和2年度 補正予算(案)について
第5回評議員会 (みなし)	12月 14日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 7号…令和2年度 補正予算(案)について
第6回評議員会 (みなし)	2月 25日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 8号…令和2年度 補正予算(案)について
第7回評議員会 (みなし)	3月 25日	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 9号…令和2年度 補正予算(案)について ・議案第 10号…令和3年度 事業計画(案)について ・議案第 11号…令和3年度 資金収支予算(案)について

(3) 各部会・委員会開催状況

会議名	月日	内容
第1回三役会・ 第1回総務部会 (合同会議)	5月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 事業報告について ・令和元年度 資金収支決算について ・令和元年度 監査報告 ・令和2年度 補正予算(案)について ・第1回評議員会(みなし評議員会)の開催について
第2回三役会・ 第2回総務部会 (合同会議)	9月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 補正予算(案)について ・第4回評議員会(みなし評議員会)の開催について
表彰審査委員会	11月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度大牟田市社会福祉協議会表彰審査
第3回三役会・ 第3回総務部会 (合同会議)	11月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 補正予算(案)について ・第4次大牟田市地域福祉実践計画策定年度の変更(延長)について ・第5回評議員会(みなし評議員会)の開催について
第4回三役会・ 第4回総務部会 (合同会議)	3月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 補正予算(案)について ・令和3年度 事業計画(案)について ・令和3年度 資金収支予算(案)について ・役員等賠償責任保険契約について

令和2年度 役員・評議員等 名簿

[理事・監事]

選出区分	役職名	氏名	備考
学識経験者	会長	川満 佳代子	
校区社協代表	副会長	汐待律子	R2.7.1 辞任
//	//	田口文博	R2.7.29 就任
民生委員・児童委員代表	//	阿津坂正晴	
学識経験者	常務理事	大迫孝博	
校区コミュニティ連協代表	理事	芳川勝	
社会福祉事業施設代表	//	井田謙	
福祉団体代表	//	大場和正	
ボランティア団体代表	//	杉野有美子	
社会福祉関係公務員代表	//	岩成寿美	R3.3.31 辞任
市議会代表	//	桑原誠	
学識経験者	//	中村秀一	
//	監事	西山明	
//	//	猿渡保生	

[評議員]

選出区分	役職名	氏名	備考
校区社協代表	評議員	三浦紀子	
//	//	塩塚國凱	
//	//	田口文博	R2.6.30 辞任
//	//	梶原純明	
//	//	平良幸雄	
//	//	閑廣行	
民生委員・児童委員代表	//	徳永京子	
//	//	塩塚康尋	
校区コミュニティ連協代表	//	萬矢勝保	
ボランティア団体代表	//	塚本恵美子	
NPO法人代表	//	平田聖子	
社会福祉事業施設代表	//	緒方莊二郎	
//	//	王生太	
福祉団体代表	//	糸原正則	
//	//	西河マス子	
//	//	松尾サダ子	
社会福祉関係公務員代表	//	中島敏信	
市議会代表	//	三宅智加子	
学識経験者	//	池端祥久	
//	//	安藤謙治	
//	//	閑誠	
//	//	奥薗征裕	
//	//	大塚力久	

学識経験者	役職名	氏名	備考
前社協会長	顧問	西村直	